

活用した業務・活動

役に立った点が具体的にあれば、お書きください。

- ・ KJ 法を使った、議事進行を円滑に行うこと。
- ・ MRMなどの事象検討でもSGDを取り入れている。
- ・ SGD の具体的なやり方がとても参考になった。
- ・ SGD の具体的なやり方
- ・ SGD の効果を実感し、学生実習でも行なったこともあった。
- ・ SGD の実施方法
- ・ SGD の実施方法
- ・ SGD の重要性がわかり、実務実習に取り入れた。
- ・ SGD の進め方
- ・ SGD 自体初だったので体験できたことがよかった
- ・ カリキュラム上の SGD において、学生の議論への方向性示唆に役立った。
- ・ セッションが進行しない場合、話題・課題の提供が柔軟にできるようになった。
- ・ ディスカッションに慣れていない場合があるので積極的に発言を誘導している
- ・ ディスカッションの運用と意見のまとめ方
- ・ リスクマネージメント関連で。
- ・ 安芸地区緩和ケア症例検討会
- ・ 委員会など会議の際に、司会進行者と書記を決めてから始めるようになった。
- ・ 医療安全、医薬品の安全使用等の研修で活用した
- ・ 医療安全について SGD をした後には講義を行った結果、より理解を深めたように思われた。
- ・ 医療安全のことを学生に SGD させることで、様々な考え方があることを体験してもらえたと思う。
- ・ 医療人としての薬剤師、リスクマネージメントについての討論で活用した
- ・ 栄養サポートチームなど。
- ・ 会議など
- ・ 皆で意見を出し合い解決策を導き出すことの必要性を認識できたこと
- ・ 各々の考えを伝え、知ることができた。
- ・ 確かに、実習生との SGD を行う際に、ワークショップで様々な背景の方々と議論を行ったことはためになった部分もあることは否定できない。
- ・ 学生が自分の意見をまとめる機会となる。
- ・ 学生さんにスモールグループディスカッションを実施してもらう時に参考にした。
- ・ 学生と他職種が交流する場でのファンリテータ的な役割を理解できたこと
- ・ 学生に SGD をやらせて、教えることを最小限にして学生自ら気づいて考えてもらう教え方ができるようになった
- ・ 学生にディスカッションさせるさい
- ・ 学生に意識してディスカッションの時間を与えている。個人ではなく、チームとしての意見を出させている。
- ・ 学生指導時に SGD の方法を知っていると、ディスカッション自体を指導できる。
- ・ 学生実習だけでなく、新人教育などにも役に立った。
- ・ 患者会
- ・ 緩和ケア研修会(医師対象、厚生労働省の事業)や世話人として参加している外部研究会のファンリテーター
- ・ 業務には役に立たない
- ・ 業務の問題点抽出、解決方法の検討において参考になった。
- ・ 業務マニュアルの作成など。
- ・ 業務改善について小グループにて検討した。
- ・ 研修のテーマを決めて皆が意見を出しながら考えをまとめていくことができた。
- ・ 研修会などでの SGD
- ・ 県内でも SGD 形式の研修を取り入れた
- ・ 個の意見も尊重する
- ・ 参加者全員が1つの目標に向って能動的かつ積極的に話し合いに参加し、一定時間内において問題解決に到る。結果的に個人レベルでは想像のつかないような成果を得ることができる。
- ・ 施設でのWSにおける進行における各人(司会、書記、発表者等)の役割について理解できていた
- ・ 事故予防対策や医療人としての倫理など、学生に討論
- ・ 自らSGDを体験したことによって実務実習ではタスクフォース的な関わりができた。
- ・ 実際に SGD を実務実習で行う際の参考にさせていただきました。
- ・ 実際に実習生にSGDを行って意見をまとめてもらう際の指導に役立てることが出来た
- ・ 実習、業務ともに他の意見を聞くことで問題点の解決につながった。
- ・ 実習のカリキュラムに取り入れることができた点です
- ・ 実習生が1人だったためSGDは難しかったが、実務実習では、できるだけ自分の考えを話してもらう機会を取り入れた。
- ・ 実習生と薬剤師での討議
- ・ 実務実習にスモールグループディスカッションを導入し、活用した。
- ・ 実務実習の課題
- ・ 実務実習時、学生にスモールグループディスカッションを行う際の参考とした。
- ・ 実務実習時、学生にスモールグループディスカッションを行う際の参考とした。
- ・ 主要な各疾患において学生と SGD を行い、理解を深めるようにしている。
- ・ 受入実習生の人数は従来1人だったが、2人にした。
- ・ 処方箋を意図を読むときに、学生同士で話し合ってもらった。
- ・ 消極的な学生からも意見を引き出せる
- ・ 情報整理・司会進行
- ・ 職員研修においてグループディスカッション形式の研修方法を取り入れた。
- ・ 職場内における教育活動など
- ・ 新人研修会に応用した。
- ・ 進行の仕方
- ・ 他の SGD の機会
- ・ 他施設の薬剤師と話し合う時に
- ・ 他者の意見(考え)を聞く機会が広がった
- ・ 他人の話を聞き、追加させて発言し、短時間で効率よく議論するのに有用。
- ・ 対立させずに合議していく
- ・ 地域における薬剤師教育(感染症領域)
- ・ 地域の指導薬剤師の研修会にSGDをとりあげた。
- ・ 調剤薬局の業務量についての知識として
- ・ 当院での処方解析の実習にSGDを取り入れた
- ・ 当院で開催する薬薬連携研修会で実際に行った。
- ・ 当院への配属学生数が少なく(2名)でグループディスカッションは難しいと考えています。(お互いの意見交換にしか

ならないのではないのでしょうか?)

- ・ 当院主催の地域医師対象の緩和ケア研修会でのスモールグループディスカッション
- ・ 当施設として、まだ始めたばかりの業務(持参薬管理)について、一方的に教えることができなかったのでスモールグループディスカッションという形をとった。学生にとってはまだ始めたばかりの業務に触れることができ、また薬剤師としては学生とともに業務を見直すことができ良かった。
- ・ 糖尿病療養指導の研修会で SGD が取り入れられている
- ・ 奈良県病院薬剤師会中小病院・診療所委員会での SGD 型研修会の開催
- ・ 日常業務においての問題点を、薬剤部または他の医療スタッフとの会議において自主的に話し合っていくように努めている。
- ・ 背景は違っても目標が同じであれば、議論することで同じ方向へ向かうことができる
- ・ 保険薬局では実習がどのような視点からなされるか理解できた。
- ・ 每期 SGD を実習の最初と最後に取り入れている
- ・ 薬局内カンファレンスを行う様になりました。
- ・ 薬薬連携での話し合いに用いた

【記述 30】

3. ワークショップに参加して

③ コンセンサスゲーム(アイスブレイキング)について 役立った業務・活動

その他を選ばれた場合はその内容をお書き下さい。

- ・ NASA における飛行機事故後の遭難での集団としての対策計画
- ・ あまり役立たなかった
- ・ お決まり過ぎでは
- ・ かなり以前のことで記憶が薄れてしまっています。
- ・ グループ施設の研修
- ・ コミュニケーションをとるための問題点なかったため。
- ・ まだ役立てられていません
- ・ ワークショップを行う上で必要なグループ員相互のコミュニケーションが円滑に行うことができるようになった。
- ・ ワークショップを受講したばかりのため、実際にはまだ活用できていません。
- ・ 院内研修会
- ・ 応用する機会がなかった
- ・ 各種研修会等
- ・ 覚えてません
- ・ 活用する機会がなかった
- ・ 活用できていません
- ・ 業務・活動なし
- ・ 業務・活動には反映できていない
- ・ 研修
- ・ 研修会
- ・ 個人的な知識として
- ・ 考え方
- ・ 講演
- ・ 実際に役立つ場面はなかった
- ・ 新人研修
- ・ 全く役に立っていない(ワークショップを受けずとも実施していたため)

- ・ 特に無い。知識としてはプラスだが、それを全てに役立つ訳ではない
- ・ 特に活用していない。
- ・ 特に活用する場がなかった
- ・ 特に活用せず
- ・ 特に役立つような機会がないように思います。
- ・ 漫画本読んでいれば知ってます。
- ・ 未実施
- ・ 役だったとは思わないです。
- ・ 役立っていない
- ・ 理解するのに時間を要する

【記述 31】

3. ワークショップに参加して

③ コンセンサスゲーム(アイスブレイキング)について 役立った業務・活動 役に立った点が具体的にあれば、お書きください。

- ・ NASA の遭難の例は盛り上がり、次の SGD が円滑に遂行した
- ・ SGD の重要性について説明する上でオリエンテーションにて学生にも行って貰った。
- ・ グループでの意思決定の時に参考にした。
- ・ グループで何かを導き出す楽しさと、共同作業することで協調性や仲間意識ができること
- ・ ゲームの主題では多様な意見が業務と異なり出やすく、まとまりやすい傾向となることが分かった。
- ・ ゲーム感覚で作業を行いお互いに打ち解ける
- ・ ディスカッション前の緊張緩和。
- ・ ものの見方を、一方向からだけでなく、異なった見方をしようとするようになりました
- ・ ものの見方を広げるべきこと
- ・ 院内の研修にをする上で、ワークショップの技法を使用させていただきました
- ・ 運営会議などで一提案について少数意見も大事に取り上げる。
- ・ 会議などで他の意見をしっかりと聞くことができる
- ・ 会議の中で議題を全員で協議し、優先順位をつけて問題を解決していく。
- ・ 議論が堂々巡りになったとき
- ・ 教育とは何を教えたかではなく、学習者が何ができるようになったかであるということ。
- ・ 業務の問題点抽出、解決方法の検討において参考になった。
- ・ 業務改善会議時の意見(少数意見等)の扱いの参考になった。
- ・ 緊張緩和の重要性
- ・ 研修会で実際に説明する側になりました。
- ・ 現在、岩手医科大学薬学部の学生の受け入れがほとんどであり、学生同士が知り合いであるため、まだ役立ててはいないが、今後他大学の学生も受け入れ、初対面同士の学生がいるという状況の際は、緊張緩和のツールとして大いに活用したい。
- ・ 個人毎に考え方が異なることが理解でき、他人の意見も参考とするようになった
- ・ 固定概念からの脱出
- ・ 講義を行う際の導入などにカラダを動かしたり考えたりすることで導入しやすい環境づくりに貢献した。

- ・最初のコミュニケーション作り
- ・自分自身の志向も視野を広める必要性を学んだ
- ・自由な発想のもとで自由に意見を戦わせることの意義は業務でも同じである。
- ・実際に具体例はないが、総合的に役立った
- ・実習初日～数日間の導入期において、学生との壁を少しでも取り払うのに役立った。
- ・実務実習で行った
- ・実務実習時、学生にスモールグループディスカッションを行う際の参考とした。
- ・実務実習時、学生にスモールグループディスカッションを行う際の参考とした。
- ・初対面の人が集まる会議やSGDなどで行うと、スムーズに進行できた。
- ・初対面の人間同士でも明確な集団目標をもってディスカッションするとこれほど短時間にまとまる事ができた。
- ・少数意見と多数意見のすりあわせ
- ・職場職員との研修会で使うことができたこと
- ・人を笑わせることの難しさ。そして、笑うことで雰囲気が変わり、意欲も高まることを学びました。
- ・全員がある程度合意して進めていくこと
- ・他の人の意見も最後まで聞く。
- ・他人の意見を取り入れる。
- ・他大生間の実習初日のコミュニケーション
- ・知らない人達が集まった時に最初にコンセンサスゲームをすれば打ち解け易いと感じました。
- ・長時間の講演の前に取り入れるようにしている
- ・内容は違うが、中学校の職業講話の時にゲームを用いた。
- ・日常業務の中で、対立意見が出た時、お互い納得できるような落とし所を見い出せるようになった
- ・日常業務の中で、対立意見が出た時、お互い納得できるような落とし所を見い出せるようになった。
- ・物事の導入に必要な要素があり、大変役に立った。
- ・物事を開始する場合の最初の進め方
- ・優先順位の決定に数多くの意見があり、グループとしての意見を取りまとめる方法が体験できた。

【記述 32】

3. ワークショップに参加して

- ③ コンセンサスゲーム(アイスブレイキング)について
活用した業務・活動
その他を選ばれた場合はその内容をお書き下さい。

- ・グループ施設の研修
- ・まだ活用していません
- ・ワークショップを受講したばかりのため、実際にはまだ活用できていません。
- ・院内研修会
- ・応用する機会がなかった
- ・各種見学など
- ・覚えてません
- ・活用していない
- ・活用していません。
- ・活用してません。
- ・活用する機会がなかった
- ・活用する機会が特になかったです。
- ・活用できていません

- ・活用無し
- ・業務・活動には反映できていない
- ・研修会
- ・考え方
- ・講演
- ・今までと同じく接して問題がなかったため特に活用することはなかった。
- ・実際に活用できる場面はなかった
- ・初対面の人との会議、話し合いで打ち解けられるようになった。
- ・全く役に立っていない(ワークショップを受けずとも実施していたため)
- ・特に活用していない。
- ・特に活用せず
- ・日常
- ・未実施
- ・理解するのに時間を要する

【記述 33】

3. ワークショップに参加して

- ③ コンセンサスゲーム(アイスブレイキング)について
活用した業務・活動
役に立った点が具体的にあれば、お書きください。

- ・KYTのブレインストーミング
- ・SGDの重要性について説明する上でオリエンテーションにて学生にも行って貰った。
- ・キャリアミーティング
- ・グループでの意思決定の時に参考にした。
- ・ディスカッションするきっかけとなった。
- ・レポートの見方、補足説明の方法
- ・学生に課題を与えた際、個々にはではなく、複数人で考えさせた。
- ・業務の問題点抽出、解決方法の検討において参考になった。
- ・研修会でデモをやりました。人に説明するときは、聞き手がわからないということを知っていないといけないので、知らなかった自分を経験しているので役に立ちました。
- ・講演するときには効果的である
- ・自己紹介に少し工夫をしていく
- ・実際の現場では、ここまでやっている余裕はない。
- ・実習初日～数日間の導入期において、学生との壁を少しでも取り払うのに役立った。
- ・実習生の緊張をほぐすのに役立った
- ・実務実習
- ・実務実習で行った
- ・実務実習の初日
- ・実務実習開始時に活用し、指導者と学習者の壁がある程度取り除くことができた。
- ・実務実習時、学生にスモールグループディスカッションを行ったときの練習項目として活用した。
- ・実務実習時、学生にスモールグループディスカッションを行ったときの練習項目として活用した。
- ・初対面の中でのディスカッションで、効率よく行うために必要な技術であることが理解できて、利用している。
- ・上記同様
- ・職員研修において取り入れた。
- ・職場内の業務改善目標において、一丸となれた

- ・心を解きほぐすことが大事だと気付きました。
- ・他のグループディスカッションについて活用した。
- ・他己紹介(自己紹介ならぬ)などを取り入れ、以後の実習を円滑に進めることが出来るよう雪解けを行った
- ・他人の意見を取り入れる。
- ・当院主催の地域医師対象の緩和ケア研修会でのスモールグループディスカッション
- ・糖尿病療養指導士の集まりで同様のゲームを行いました。
- ・発想の転換が必要であることを混注手技や監査業務を通じて指導している。
- ・部内の会議で意見の違いがあるときの考え方として
- ・問題可決の上で、状況把握・状況分析の方法と思考、ディスカッションを行う方法を学び応用できた。
- ・薬剤科内のミーティング

【記述 34】

3. ワークショップに参加して

④ KJ法(課題の抽出)について
役立った業務・活動

その他を選ばれた場合はその内容をお書き下さい。

- ・KJ法による業務の問題点抽出を行っている。
- ・アドバンスドワークショップの開催
- ・がん研修の受け入れ
- ・グループ施設の研修
- ・セーフティマネージメントの部分で問題点の抽出で。
- ・ワークショップを受講したばかりのため、実際にはまだ活用できていません。
- ・医療安全(医療事故からの問題点の抽出)
- ・医療安全(医療事故からの問題点の抽出)
- ・院内の委員会で問題抽出を行う際に使った
- ・院内研修会
- ・各種研修会等
- ・学習指導
- ・学生が悩んでいる時の、助言に。
- ・業務改善のための対策立案
- ・業務等への応用は困難では
- ・研修
- ・研修にてKJ法を活用できた。
- ・研修会
- ・研修会
- ・研修会においてKJ法における分析技術が役立った
- ・参加実習生の人数が少ないと実施が困難。
- ・子供の教育
- ・自分の物事の考え方について
- ・実際に使う場所がない
- ・実施していない。
- ・全く役に立っていない(ワークショップを受けずとも実施していたため)
- ・日々の業務においても問題点の抽出に活用することができた
- ・病院内でのチーム活動
- ・病院薬剤師会での研修でKJ法について説明があった時に理解しやすかった
- ・本法の使用には著作権の問題があるとの話を聞いて、自分の能力では法的解釈が難しかったので安全サイドを考

えてSWOT分析を行っている。

- ・問題の整理
- ・役立っていない
- ・役立っていない

【記述 35】

3. ワークショップに参加して

④ KJ法(課題の抽出)について

役立った業務・活動

役に立った点が具体的にあれば、お書きください。

KJ法という言葉を知っていることにより、理解できた講演会があった。

- ・KJ法のやり方を学べたこと
- ・KJ法のやり方を知っていたということ
- ・KJ法の意義とその方法について
- ・KJ法概念を学べて、実務実習に活用できている点。
- ・KJ法の復習ができた。
- ・KJ法は、プレゼンの作成などにも役立った
- ・KJ法はとでもためになった。
- ・KJ法は学生の評価もよいようです。
- ・KJ法を行う事で、院内での問題点を抽出し、また解決することに非常に役立った。医療安全分野での持参薬管理について
- ・KJ法を利用した院内研修があり、スムーズ行えた。
- ・SGDにおいて話をまとめていく上で参考になった。
- ・SGDに用いて積極的な話し合いが出来た
- ・SGDの具体的なやり方
- ・SGD取り組み方
- ・アンケートの解析に使用
- ・いろいろなポイントを列挙し、セレクトしていくこと、しぼっていくこと
- ・すべての参加者の意見を引き出す手法として興味を感じた
- ・リスクマネージメントの分析などにも役にたった
- ・安全対策
- ・意見の集約に役立つ
- ・院内でKJ法を行なう機会が何度かあり理解しやすかった。
- ・演習内容を挙げる際に役立った
- ・学生の進捗状況において問題となる課題の検索
- ・学生実習だけでなく、新人教育・業務改善などにも役にたった。
- ・簡便にスタッフの意見を収集し総括することができた
- ・記載することにより、意見の突破口を聞くことができ議論がすすみやすかった。
- ・議事進行を円滑にできた。
- ・業務の効率化を図るために、問題点を抽出した
- ・業務の問題点抽出、解決方法の検討において参考になった。
- ・業務改善
- ・業務改善に向けての課題の抽出に役立った。
- ・業務改善に取り組む際、問題点をKJ法で抽出できた
- ・業務上の問題点の抽出
- ・業務内容のスリム化にたいしての問題点とつながりの明確化
- ・系統立てて考えることができる点。
- ・研修会を企画する上で役に立った。

- ・ 現在の実務改善を検討した際に利用した。
- ・ 今後、活用したいです。
- ・ 参加しやすい。
- ・ 指導薬剤師養成や実務実習だけでなく、他のワークショップにも取り入れられているため
- ・ 施設内のチーム活動の決定時に活用した。
- ・ 実習生の指導に対して不安はあったが、自分としてはできるだけ自分の行っている業務(病棟、薬剤管理指導業務)を実習生に経験させるようにしている。
- ・ 実習生受け入れ側の知識不足・時間不足の把握・積極性のない薬大生の増加
- ・ 実務実習において問題が起こった時どうすればゴールに近づけるか考えるのに役立った。
- ・ 実務実習指導及び業務改善のための問題点の抽出・検討に役立った。
- ・ 初めて実際に KJ 法を体験することができました。
- ・ 消極的な人も、意見を出しやすく、それをきっかけに活発に議論に参加できるようになった。
- ・ 症例の問題点の抽出に役立った。
- ・ 情報の収集と整理
- ・ 職員研修を受講した際に、理解しやすく役に立った。
- ・ 職種異なる薬剤師の立場からいろいろな意見が出るため、学習方略がうまく立てられた
- ・ 職場で行った。
- ・ 職場主任研修を受講した際に、役に立った。
- ・ 職場内での業務改善
- ・ 新たなものをうみだす上で、短時間で実りが多い手法である。
- ・ 新人に行うことで業務の改善に対する考えを教えることができた
- ・ 新人薬剤師養成
- ・ 新人部員の教育
- ・ 世話人を務める研究会の参加型研修会でやりました。
- ・ 他の勉強会で KJ 法を行い討議をした際、役にたった。
- ・ 他施設での実務実習の問題点が共有できた。
- ・ 他施設との合同研究
- ・ 多くの人の意見をまとめるには同じような意見を島に分けてその島に名前をつける方法がとても分かり易い。
- ・ 地域連携の研修会においても KJ 法を使用したため、理解しやすかった。
- ・ 同じような課題や問題を抱えているスタッフも多く、共有することで団結力につながる事が分かりました。
- ・ 特に活用する機会がなかった。
- ・ 日常業務において問題点が何なのか考え直す際に役立った。
- ・ 日常業務の改善点を担当者間で KJ 法を利用し検討し問題点を共有した。
- ・ 病院内でのチーム活動での問題点の抽出に役立っている
- ・ 病院薬剤師会の会合
- ・ 普段の思考を明文化でき、いろいろ考えるようになった。
- ・ 部内の各セクションでの問題点と、優先順位をつける際に役に立っています。
- ・ 物事の根本を深く考察することの重要性
- ・ 分類して、相互関係を見つけていくこと
- ・ 問題に対する取り組み方法を学べた。
- ・ 問題の意見を各島に仕分けることで、グループ化し問題の根本を見いだせる事が体験できた。
- ・ 問題抽出を行うときには有効
- ・ 問題点の整理の重要性

- ・ 問題点の抽出、解決策への応用
- ・ 薬局内のインシデント解析に使用
- ・ 優先順位を付けられるようになった
- ・ 様々な人間の様々な意見を系統的にまとめることができるためいろんな場面で利用できる。
- ・ 理論的に問題点を解決することが出来る点と全員で認識を共有できる点

【記述 36】

3. ワークショップに参加して

④ KJ 法(課題の抽出)について
活用した業務・活動

その他を選ばれた場合はその内容をお書き下さい。

- ・ KJ 法を初めて知り、こういう方法があるのかとびっくりした
- ・ グループ施設の研修
- ・ ワークショップを受講したばかりのため、実際にはまだ活用できていません。
- ・ 医療安全(医療事故からの問題点の抽出)
- ・ 医療安全(医療事故からの問題点の抽出)
- ・ 課題を抽出して意見を集約する
- ・ 活用した業務・活動はありません
- ・ 活用していない
- ・ 活用していません。
- ・ 活用無し
- ・ 業務等への応用は困難では
- ・ 研修会
- ・ 研修会
- ・ 使うことがなかった
- ・ 静岡県厚生連薬剤師研修会
- ・ 全く役に立っていない(ワークショップを受けずとも実施していたため)
- ・ 特に活用していない。
- ・ 特に活用せず

【記述 37】

3. ワークショップに参加して

④ KJ 法(課題の抽出)について
活用した業務・活動

役に立った点が具体的にあれば、お書きください。

- ・ 3 病院の学生を集めて、KJ 法を用いて「実務実習」に対しての問題抽出にとり組んだ。
- ・ SGD の具体的やり方
- ・ SGDを時間内にまとめるための考え方
- ・ SGDを進める上で、この手段が有効である
- ・ いろいろなポイントを列挙し、セレクトしていくこと、しぼっていくこと
- ・ グループ分けが円滑にできること
- ・ グループ分けすることにより、問題点がまとまり、わかりやすくなった。
- ・ リスクマネージメント
- ・ リスクマネージャーとしての業務に活用できた
- ・ リスクマネージメントの RCA 分析にも利用した。
- ・ 以前より使用していたが、改めて行って良かった。
- ・ 医療安全、医薬品の安全使用等の研修で活用
- ・ 医療安全対策における SGD で活用している

- ・ 医療人としての薬剤師、リスクマネジメントについての討論のツールとした
- ・ 課題の抽出方法
- ・ 会議で意見が出ないことを回避することが出来た。
- ・ 学会発表や研究計画の立案の際に役立った
- ・ 学生がどのように考えているのかがわかりやすい。
- ・ 学生とのグループワークで活用しました。
- ・ 学生と症例検討を行う際に活用できた。
- ・ 学生にやらせることの優先順位を考えさせることができるようになった
- ・ 学生実習だけでなく、新人教育・業務改善などにも役に立った。
- ・ 業務の効率化を図るために、問題点を抽出した
- ・ 業務の問題点抽出、解決方法の検討において参考になった。
- ・ 業務改善で問題点を収集し明確になったことで、対応が立てやすかった。
- ・ 業務上の問題点の抽出
- ・ 検討結果を院内 QC 活動に利用した。
- ・ 研修会で SGD をする際活用している
- ・ 研修会を企画する上で役に立った。
- ・ 今後、役立てたいです。
- ・ 施設内の業務改善に有用だった。
- ・ 視覚的にわかりやすくはっきりとまとめる
- ・ 時代の流れの中での本来あるべき薬剤師の業務を学生に知ってもらおうとき
- ・ 実際に学生に対して実践した。
- ・ 実際の業務に役立てるまでは至ってないが、参考になった。
- ・ 実習の SGD に取り入れた。
- ・ 実習業務の改善をするための一つの考え方であり、改善の一助になる。
- ・ 実習指導のための施設内WSのSGD。
- ・ 実習生に SGD で同じ手法を行った。
- ・ 実習内容を考えるうえで、自然と課題を抽出し、整理して優先順位をつけるようになった。
- ・ 実務実習だけでなく、他の実習・研修時にもこの方法を利用させていただいている。
- ・ 実務実習において問題が起こった時どうすればゴールに近づけるか考えるのに役立った。
- ・ 実務実習に参加する学生の考え・態度について参考になった。
- ・ 実務実習の問題点について
- ・ 実務実習指導及び業務改善のための問題点の抽出・検討に役立った。
- ・ 実務実習全般
- ・ 職員研修を受講した際に、実践した。
- ・ 職場での医療安全の講習会で KJ 法を用いた講習を行った。
- ・ 職場で行えた。
- ・ 職場主任研修を受講した際に、役に立った。
- ・ 新人薬剤師研修会
- ・ 世話人を務める研修会のファシリテーターとして。
- ・ 精神科薬剤管理指導初回時にワークショップでの経験を活用し問題点抽出に役立てました。
- ・ 他のグループディスカッションについて活用した。
- ・ 他施設との合同研究
- ・ 地域薬剤師会でのグループディスカッション形式勉強会開催

- ・ 長期実習生を受け入れる前に KJ 法で職場内の問題点を抽出した。
- ・ 当施設として、まだ始めたばかりの業務(持参薬管理)について、一方的に教えることができなかったので KJ 法→スモールグループディスカッションという形をとった。学生にとってはまだ始めたばかりの業務に触れることができ、また薬剤師としては学生とともに業務を見直すことができ良かった。
- ・ 日常業務において問題点が何なのか考え直す際に役立った。
- ・ 日常業務における問題点の掌握に理論的に取り組めた(これまでは自己流)
- ・ 病院の業務で課題を決める場合に KJ 法を用いた。
- ・ 病院内でのチーム活動の問題点の抽出に役立っている
- ・ 病院薬剤師会の会合
- ・ 服薬指導の問題点について実際に KJ 法を行ってみた
- ・ 勉強会への積極的な参加と自己研鑽、実習生への開かれた質問と効率的なためになるスケジュール調整
- ・ 問題点の抽出方法
- ・ 問題点を整理・分類するのに役立った。
- ・ 薬剤管理指導業務の中の自己管理に向けた取り組みに一步踏み出せた。
- ・ 薬剤師の個々の考え方、意見の抽出
- ・ 薬剤師会の新人勉強会で問題抽出に使った
- ・ 薬薬連携を進めていく上で、いろいろな薬剤師のいろいろな考えを知ることに役立った
- ・ 様々な意見をまとめる時に公平に意見を取り入れることができた。

【記述 38】

3. ワークショップに参加して
⑤ 問題点への対応について
役立った業務・活動

その他を選ばれた場合はその内容をお書き下さい。

- ・ あまり役立たなかった
- ・ ワークショップを受講したばかりのため、実際にはまだ活用できていません。
- ・ 各種研修会等
- ・ 参加したグループでの課題が薬局薬剤師の実務実習に関するものだったので直接的には業務に反映していない
- ・ 自分の仕事内容にも優先順位をつけて考えるように心がけた。
- ・ 少なくとも私が受講したワークショップでは当該部分は具体性に乏しい内容であり、現実に役立つ者ではなかった。
- ・ 特に活用せず
- ・ 役立っていない

【記述 39】

3. ワークショップに参加して
⑤ 問題点への対応について
役立った業務・活動

役に立った点が具体的にあれば、お書きください。

- ・ マイナス因子をコントロール、プラス因子を推進するか、冷静に分析する
- ・ マイナス因子を減らす。

- ・ マイナス因子を弱める対応を考えることができるようになった
- ・ 安全対策
- ・ 移り行く問題点の把握が常に必要であると再認識した。
- ・ 医師の業務の負担軽減
- ・ 一つ一つ環境を整えることが大事。
- ・ 解決策への応用
- ・ 学生が疑問点に遭遇した際、解決方法がある程度示すのに役立った。
- ・ 学生との話し合いの中で学生自らが改善していった
- ・ 学生自身の評価と指導薬剤師の評価が乖離した場合の対応について
- ・ 活発なディスカッションができるようになった。
- ・ 関係者間で問題を共有するように試みている。
- ・ 業務の問題点抽出、解決方法の検討において参考になった。
- ・ 業務への取り組み方、スケジュールの立案に
- ・ 緊急度と重要度を考えることにより物事をスムーズに処理できるようになった。
- ・ 具体例はないが、総合的に役に立った
- ・ 指導するまだ経験の浅い薬剤師に対して、説明・助言できた点。
- ・ 事前交渉の重要性
- ・ 実務実習において問題が起こった時どうすればゴールに近づけるか考えるのに役立った。
- ・ 職員研修を受講した際に、理解しやすく役に立った。
- ・ 職場主任研修を受講した際に、役に立った。
- ・ 新しい業務の導入に際して
- ・ 抵抗に関する諸問題の解決にはマイナス因子を弱めることを優先的に考える事が望ましいと言われた点
- ・ 導き方、問題の提議
- ・ 二次元展開法で解決計画の優先順位を決め対応していくことを学び、実際の業務で使用している。
- ・ 二次元展開法による個々の問題点の明確化。
- ・ 部署内ミーティングで参考にしている
- ・ 問題へのアプローチや対処方法など
- ・ 問題を解決する方法が増えた。
- ・ 問題点があった場合、重要度と緊急度を考えながら対応策を考える習慣ができた
- ・ 問題点を解決する方法を理解できた。
- ・ 問題点を共有することで、コミュニケーションをとる機械が増え、納得のいく結論が出せるようになりました。
- ・ 問題点を整理して考えるようになった。
- ・ 問題点を分けて、緊急性と重要性を考慮して解決策を検討するということ。
- ・ 薬剤師の人数、実習生の人数も多いため、実習に関する問題点は常にあるが、優先度を決めて実行することで業務上の混乱が少なくなる
- ・ 薬剤師管理業務の効率化
- ・ 優先順位の考え方
- ・ 様々な薬剤師の方と問題点の共有ができたこと。
- ・ 力野分析の考え方

【記述 40】

3. ワークショップに参加して
- ⑤ 問題点への対応について
活用した業務・活動

その他を選ばれた場合はその内容をお書き下さい。

- ・ ワークショップを受講したばかりのため、実際にはまだ活用できていません。
- ・ 活用していない
- ・ 少なくとも私が受講したワークショップでは当該部分は具体性に乏しい内容であり、現実に役立つ者ではなかった。
- ・ 特に活用せず

【記述 41】

3. ワークショップに参加して
- ⑤ 問題点への対応について
活用した業務・活動

役に立った点が具体的にあれば、お書きください。

- ・ SGD のテーマに取り入れた。
- ・ インシデント・ヒヤリハットの改善
- ・ リスクマネージャーとしての業務に活用できた
- ・ 医療安全のセッションにて指導で参考にした
- ・ 解決策への応用
- ・ 学生が疑問点に遭遇した際、解決方法がある程度示すのに役立った。
- ・ 学生と症例検討を行う際に活用できた。
- ・ 学生は結果を気にしてしまうが、なにが問題であったのかを明確化することで意識を変えるように導いている。
- ・ 活発なディスカッションを促すために役立った。
- ・ 記録の時間配分、人的配置
- ・ 業務、スケジュールへの取り組み、方針を考える時に
- ・ 業務の問題点抽出、解決方法の検討において参考になった。
- ・ 業務改善時に、どの問題点から取り組むかを検討した。
- ・ 仕事が忙しいときに、仕事の障害となる事柄をなくする事を考える様にしています。
- ・ 思考回路を増やし、解決能力が増す。
- ・ 施設内、施設外での問題がそれぞれ起こり得ることを学びました。
- ・ 実習を引き受ける上で、当院での問題点の見直しを行った。
- ・ 実習業務全般
- ・ 実習指導について、改善策を考える時。
- ・ 実務実習において問題が起こった時どうすればゴールに近づけるか考えるのに役立った。
- ・ 上記同様
- ・ 職員研修を受講した際に、実践した。
- ・ 職場主任研修を受講した際に、役に立った。
- ・ 新しい業務の導入に際して
- ・ 整形外科病棟における医師の処方支援
- ・ 精神科薬剤管理指導時にワークショップでの経験を活用し今後の計画に役立てました。
- ・ 大学教員を交えて改善するような指導が行えた
- ・ 調剤ミスが増加傾向にあった際に減らす方法を探り出すのに当該プロセスを利用した
- ・ 導き方、問題の提議
- ・ 二次元展開法を活用した
- ・ 日常業務での問題点の解決
- ・ 病院と開局薬局同士の研修会の実施
- ・ 問題点の分析。
- ・ 問題点をあげ、解決するための方法を検討出来た(薬剤管

理指導)。

- ・ 問題点をすべて解決するのではなく、また、最も緊急で重要なものだけを考えるのではなく、有効なものを選んで対処するように心がけられるようになった

【記述 42】

3. ワークショップに参加して

⑥ PNP(positive-negative-positive)によるフィードバックについて

役立った業務・活動

その他を選ばれた場合はその内容をお書き下さい。

- ・ OSCE トライアル 評価者
- ・ OSCE の 評価者
- ・ PNP がいいとは思えません。
- ・ あまり役立たなかった
- ・ オスキーでのフィードバック
- ・ この内容については今までも実践はしていたが、体系だった理論として理解出来たため、よりの確に行なえるようになったとは感じている。
- ・ やった記憶がない
- ・ よくわからなかった
- ・ ワークショップで実施していないような気がします
- ・ ワークショップを受講したばかりのため、実際にはまだ活用できていません。
- ・ 該当内容不明
- ・ 記憶してません
- ・ 記憶にありません
- ・ 現在までのところなし
- ・ 項目が不明。
- ・ 参加したグループでの課題が薬局薬剤師の実務実習に関するものだったので直接的には業務に反映していない
- ・ 参加した研修で PNP が説明されたか記憶がない
- ・ 使う場面がない
- ・ 大学の OSCE 試験官を行った時
- ・ 平成 15 年度のワークショップでは本項目はなかったように思います。
- ・ 役立っていない
- ・ 役立っていない

【記述 43】

3. ワークショップに参加して

⑥ PNP(positive-negative-positive)によるフィードバックについて

役立った業務・活動

役に立った点が具体的にあれば、お書きください。

- ・ OSCE での評価
- ・ PNP を実践することで、実習生のモチベーションが上がり、また人間関係も良好に保てた。
- ・ PNP を心がけて実習生の教育を行っている、
- ・ うまく導き出す方法を学んだ
- ・ フィードバックのやり方が学べた
- ・ フィードバックの方法は知らなかったので大変役に立った
- ・ 改善に対する抵抗と方策において、プラス因子のみにとられない考え方を理解できた。
- ・ 学生が実習中にアクシデントを起こしたときに活用した

- ・ 学生さんに、アドバイスをを行う時に参考にした。
- ・ 学生にいかにやる気を出させるかは重要である
- ・ 学生に考えさせる場面で
- ・ 学生のやる気を伸ばす
- ・ 学生へのフィードバック
- ・ 学生へのフィードバックの手法として定着した感がある。
- ・ 学生への教え方、接し方
- ・ 学生への評価の際、意識してフィードバックするようにしている。
- ・ 学生や若手薬剤師への指導
- ・ 学生や職場の後輩への指導を行う際、円滑に行えた。
- ・ 業務、スケジュールへの取り組み、方針を考える時に
- ・ 業務の問題点抽出、解決方法の検討において参考になった。
- ・ 形成的評価に役に立っている。
- ・ 原則的に発見したものの、疑問に感じたものは POSITIVE に声をかけるよう指導者全員へ声かけしている。学生も話しやすくなっているようだ。
- ・ 現状業務にもこの思考が欠けているのではないかと気づいた。
- ・ 後輩などの指導に意識しています。
- ・ 後輩の指導において活用できた
- ・ 後輩や学生の指導だけでなく、会議で意見を言う場合にも PNP を意識することで、受け入れられやすくなった。
- ・ 指導の際に心がけるようにしました。
- ・ 自施設での新人教育
- ・ 実際の実習指導時に、心がけながら指導を行った
- ・ 実習生だけでなく後輩の指導の際、効果的であった
- ・ 実習生の実習内容に役立った
- ・ 実習生への形成的評価
- ・ 実習生への指導時
- ・ 実務実習の基本的な方針として取り入れている。
- ・ 出来の悪い学生に対して、熱くならないよう自制することができた。
- ・ 常に PNP を意識し、学生や後輩の指導にあたるようになった。
- ・ 新人を教育する場合に使用した
- ・ 新人教育
- ・ 新人教育
- ・ 新人教育の指導に役立てた
- ・ 人と話すときに努めて実施するようになった
- ・ 前向きな意見で、実習に取り組む必要性を自分自身も認識することができた。
- ・ 対話を円滑にすすめることができる
- ・ 大学に OSCE の試験監督に行った際に役に立った。
- ・ 部下に評価結果を伝える時、PNP を使うように心がけている。
- ・ 部下の指導の参考にした。
- ・ 幅広い場面で役立つ。コミュニケーションがスムーズになると思う。
- ・ 良いことを言う→変えたほうがいい事をはっきり言う→がんばって！と言うなど具体的な方法を示してくれた事
- ・ 良い点を見つけてほめる

【記述 44】

3. ワークショップに参加して

⑥ PNP(positive-negative-positive)によるフィードバックについて

活用した業務・活動
 その他を選ばれた場合はその内容を枠内に直接お書き下さい。

- ・ OSCE の評価者
- ・ OSCE の評価者として参加した際
- ・ この内容については今までも実践はしていたが、体系だった理論として理解出来たため、よりの確に行なえるようになったとは感じている。
- ・ よくわからなかった
- ・ ワークショップを受講したばかりのため、実際にはまだ活用できていません。
- ・ 該当内容不明
- ・ 活用していない
- ・ 患者教育
- ・ 記憶してません
- ・ 記憶にありません
- ・ 現在までのところなし
- ・ 項目が不明。
- ・ 参加した研修で PNP が説明されたか記憶がない
- ・ 使う場がない
- ・ 大学の OSCE 試験官を行った時

【記述 45】

3. ワークショップに参加して

⑥ PNP (positive-negative-positive) によるフィードバックについて

活用した業務・活動

役に立った点が具体的にあれば、お書きください。

- ・ negative な点を挙げると誰とでも意見がすぐに一致するが、positive な点は努力して探さなければならず、良い資質を探して延ばしてやることは、指導する側にも努力が必要なのだと分かった。
- ・ OSCE での評価
- ・ OSCE 評価者としての参加時に役立った
- ・ SGD において批判を怖がらせることなく学生の本心を聞けた
- ・ レポートにコメントするとき心掛けた。
- ・ 何らかの折衝のときにこの手法が役に立つ
- ・ 学生が行う課題発表に対してコメントを付けるとき
- ・ 学生さんに、アドバイスを行う時に参考にした。
- ・ 学生だけでなく新人教育の際にも気をつけるようになった。
- ・ 学生にもよるだろうが、誉めて終わる事で萎縮せずに次に進む事が出来たこと。
- ・ 学生の意欲を損なうことなく指導できる
- ・ 学生への教え方、接し方
- ・ 学生への評価の際、意識してフィードバックするようにしている。
- ・ 学生や後輩の学習効果や意欲を高めることができた。
- ・ 学生や若手薬剤師への指導
- ・ 学生や職員へのフィードバック・指導時に気を付けた。
- ・ 学生を叱って指導するのではなく、間違いについて、どうしていけないのかを理解して指導する。
- ・ 学生指導、後進育成
- ・ 学生評価の際にも有用であるがコミュニケーションを図る上で基本的に必要である。

- ・ 観察、考察し、その内容を話すことの難しさが伝わったと思われる。
- ・ 教育者にとって褒めることはとても重要な事だと学び、実践するようにしています。
- ・ 業務、スケジュールへの取り組み、方針を考える時に
- ・ 業務の問題点抽出、解決方法の検討において参考になった。
- ・ 形成的評価に活用している。
- ・ 後輩の教育に。
- ・ 後輩の指導
- ・ 後輩の指導において活用できた
- ・ 後輩への指導時のポイントとして
- ・ 指導の際に心がけるようにしました。
- ・ 自施設での新人教育
- ・ 実際に PNP を行った
- ・ 実際に指導する場合に考慮した
- ・ 実際に指導する場合に考慮した
- ・ 実際の実習指導時に、心がけながら指導を行った
- ・ 実習の日誌に対するコメントは PNP で行うよう、他の薬剤師にも説明し、実施している。
- ・ 実習指導、研修会、SGD のファシリテータ、会議での発言など。
- ・ 実習生が行き詰ったとき
- ・ 実習生に対しての言葉かけを気をつけるようになった。
- ・ 実習生に対してフィードバックするときに PNP を活用した
- ・ 実習生の教育、キャリアミーティング
- ・ 実習生への形成的評価
- ・ 実践は難しいが、心がけてするようになった。相手の気持ちを考慮すると良い方法だと思う
- ・ 実務実習や早期体験実習で実際に活用した。
- ・ 出来の悪い学生に対して、熱くならないよう自制することができた。
- ・ 症例検討、業務改善の検討時に利用
- ・ 上記記載
- ・ 職員への指導
- ・ 新人教育
- ・ 新人教育の指導に役立てた
- ・ 新人薬剤師の教育
- ・ 人事考課における面談
- ・ 生徒の評価時
- ・ 全体にアンケートをとることで、negative、positive 両方の意見をリストアップでき、多方面からの考え方を持つことが出来た
- ・ 他のグループディスカッションについて活用した。
- ・ 大学に OSCE の試験監督を行った際に、学生の評価に活用した。
- ・ 非常に共感できる考え方であり、実務実習のみならず、後進の育成にも役立つと考える。
- ・ 部下への指導を行なう際に PNP を用いる機会が増えた。
- ・ 服薬指導での対応方法のフィードバック
- ・ 良い点、改善点のフィードバックを行うようにした。

【記述 46】

4. ワークショップ全体について

(2) ワークショップに参加して有意義だったと思われる点は何ですか(複数回答可)。

その他

- ・SGDについて色々体験出来たこと
- ・SGDの実施方法を学べた
- ・いろんな意味で、モチベーションを高めなければいけないと感じさせられたこと。
- ・このワークショップ自体、意味がないと思う
- ・スモールグループディスカッションで、自分の意見を述べる、他人の意見を聞く訓練ができた。
- ・スモールグループディスカッションで、自分の意見を述べる、他人の意見を聞く訓練ができた。
- ・プランニングおよびフィードバックの重要性について理解できた。
- ・ワークショップ受講者の連帯感が生まれた
- ・学習とは行動に価値ある変化をもたらすプロセスということが理解できた
- ・基準に準じた実務指導が行えることも薬剤師の使命であることがよく理解できた。
- ・共通の土台に乗ることで、保険薬局の先生方のものの方・考え方が理解できた。この情報はなかなか得がたい。
- ・教育するということについて考えることができた
- ・教育に関するヒントが得られた。
- ・教育の仕方、理論的などに触れたこと
- ・教育学の基本的な事項を知る手掛かりができた
- ・教育方法にこういう方法もあるということ
- ・教師になるための教育を受けていて理解している部分も多かったのではないのでしょうか？
- ・今でもワークショップで一緒だった薬剤師と情報交換をしていること
- ・今までとは教育に真剣に取り組む姿勢が出来た
- ・座学だけでは無く、より理解できた。教育論がすこし理解できた。
- ・自ら意見を出し合い、皆の意見を一つにまとめあげていくことを積極的にしていくこと。
- ・自分が受講した後、タスクフォースを何度か務めさせていただきました。その過程で、WSについての理解は深まったかと思えます。1回限りで多くを理解するのは困難な点もあるかと思えます。病院・薬局・大学との繋がりができて良かったです。
- ・自分も見つめなおす良い機会になった。
- ・実習について学生の意欲を高めるようなことを大学の教員は期待されているようであるが、意欲は実習前に大学で高めて頂きたい。学校と社会は違うということを教員の方も理解した方がよいと思う。厳しい言い方ですが、一度も大学外で働かれたことのない方が学生実習を担当されるのは無理とさえ思う。
- ・実習生への接し方
- ・実務実習に対して、幅広い考え方ができるようになった
- ・実務実習を行う上で、内容や手法を考える際の一助となった
- ・受けた当初はよく理解できないままであった。今となれば良く理解できるが・・・
- ・初対面の方達と、時間を追うごとに親近感を感じ、短時間で価値ある変化をさせてもらった。
- ・他の施設での実習状況、現場では批判しがちな大学での教育姿勢などを知ることができ、非常に有用であった。
- ・大学、薬局、病院のそれぞれの学生に対する考え方が、考えていた以上に違うのに驚いた
- ・大学教育が大きく変化しているの、それを理解できる機会があつて良かったです。
- ・大学教員の、現場の現状認識の不足及び病院薬剤師に

- 対する評価の低さがわかった
- ・短時間で問題点を抽出し、まとめて、発表する能力が高まった。
- ・調剤薬局の薬剤師の仕事内容や、立場を理解できた。
- ・当時は、6年生実習が開始される前であったので、事前の心構えには有意義だったかもしれない
- ・同じグループに病院・薬局薬剤師、大学教員が含まれていたことが良かった。ワークショップ後も他の職場の薬剤師とのよい関係が続いています。
- ・特になし。わざわざ「指導薬剤師」というものを作らねばならないという程のものではない。
- ・薬局薬剤師、病院薬剤師の実務実習への取り組み方が露見された
- ・薬剤師の職業倫理の持ち方も教育観も、薬局・病院・大学で大きく異なることが肌で感じられた。
- ・薬剤師の職能の深さを体験できた
- ・薬業連携の必要性を再認識した。
- ・与えられた場所での状況判断が、薬剤師として正しかったのか、その人の言い分を認めて聞くこと
- ・立場、経験が違えば考えや意見が異なるのは当然で、その中で意見をまとめる必要性を学ぶことができた。

【記述 47】

4. ワークショップ全体について

- (3) ワークショップに参加して、改善すべき点、期待はずれだったこと、こんなことをやって欲しかった、こんな情報が欲しかったなど、自由にご意見をお書き下さい。

改善すべき点

- ・(受け入れ側に差があり過ぎて仕方が無いが、)画一的過ぎる。
- ・“医療倫理”というテーマだと漠然として全体を掴みづらいと思う。
- ・「上から来させられた」のではなく、意欲のある人が来るべき。1施設で何人と制限するのではなく、WSを受けた人が転職すれば裾野は広がるのだから、業界全体として悪いことではないはず。今はどうかわかりませんが、個々の施設(特に薬局)に必要なからということで、組織が作成的に選んで声をかけているとか、すでに認定者がいる施設(病院)へは声がかからないという話も聞こえてくる。WSを受け認定を取ることが不可価値として個人の評価につながれば、薬局でも自主的に参加する人は増えると思う。
- ・1グループ10名近くのSGDは人数が多く、まとまりにくい。
- ・1グループ9名で行っていたため、皆さんの意見を聞いているとすぐに時間が経過してしまい、時間が短いと感じました。
- ・“①グループの人数が9名は多すぎる。6~7名が妥当。
- ・5年の経験年数の見直し。上司などの推薦、生涯研修の単位取得など一定の基準をクリアしていれば、5年以下でも、参加できるようにすべき。
- ・大学教員が参加する意義がよくわからない。”
- ・1回あたりの参加者を少なめにして、参加者全員が、他のグループ結果との交流を深められるようにしてはいかげでしょうか。
- ・1回参加すればそれでおしまいになってしまい、内容を忘れてしまった。
- ・1施設に複数の実務実習指導薬剤師が存在できるように、継続開催をお願いします。

- ・ 1日の研修時間が長い。
- ・ 1日目の懇親会は必要無いのではないかと？
- ・ 1日目の情報交換会は有意義ではあるが、帰宅が遅くなり、その後レポート作成があるためかなり疲れた状態での2日目を迎えないといけないのを改善できないか。
- ・ 2日は長すぎだともう。
- ・ 2日間ではきつかった
- ・ 2日間で行うには内容・スケジュールがハードすぎた。
- ・ 2日間を終了するには少し時間が足らなかった。考える時間がもう少し欲しいと思う事が何回もありました。
- ・ 2日間という日程は短いと思います。
- ・ “2日間の中で多くを詰め込みすぎていて、それぞれの研修の目的が浸透していないうちに開始しているため結局生かせない。
- ・ 必要最低限に絞って深く掘り下げていくのが良いのか？”
- ・ 2日間みっちり実習を行い、かなり疲労してしまったので、内容をしぼって半日～1日の開催にして頂ければと思う。
- ・ 2日目の中だるみになる時間帯を調整してほしい
- ・ 6年生実習が始まる前の現在では、状況が異なる。今後のワークショップはもう少し簡略化し受講しやすいものにするべき
- ・ H17年に一度受けただけなので何年かに1回アドバンスコースなどを設けて再度実地してほしい
- ・ OHPでなく、PPTで講義をするほうが、見る側も話す側にも利点がある。OHPにこだわる理由が理解できない。
- ・ OHPではなくPower Pointを使用してほしい
- ・ SBO⇒業務内容の行動目標に落とし込んだ、テキストの作成
- ・ SBOsについてどのように解釈し実習に結びつけていくかを教えてほしいです。
- ・ SGDが多く、2日間でもとても疲れた。
- ・ SGDでは、進める役割を担う人を、グループの中からではなく、あるべき方向へ進めてくれるスタッフを当ててほしいかった。私たちの世代はディスカッションに慣れておらず、油断するとすぐに雑談になってしまい、情報交換会として盛り上がるだけに終わってしまって、まともななかったような記憶があります。
- ・ SGDの時間が少し短いように思えた。初めての議題であるため、もっと沢山話し合いをしたかった。
- ・ WSに出たからといって、実習の進め方がよくわからないことに変わりはない。認定の必修にするには、内容がプランニングに偏りすぎ。実習指導に役立つもっと具体的な内容もあっていいのではないかと？
- ・ WSの意義、目的、内容を参加前に連絡したほうがよい。
- ・ アイスブレイキングの内容は有名な為、目新しいものは導入できないか？
- ・ アイスブレイキングをいきなりやって打ち解けるという手段もあるが、とりあえずもう少し自己紹介などの一手間がやっぱり必要です。
- ・ あくまでも、余裕がある所での実習については有意義だと思われるが、少人数の所ではやや疑問である。
- ・ あまりにも考え方を押しつけすぎではないでしょうか？
- ・ あまりに時間に追われたような実感があります。もう少し余裕あるワークショップにしていきたい。
- ・ いきなり始まった印象。何を分かるために行う講義なのかをはっきりして欲しかった。
- ・ いそがしすぎて、きちんと話し合いをする時間が少ない事。もっとプランニングのウェイトをおさえても良いのではと思う。
- ・ いろいろな職種の薬剤師が集まっているので立場の違いからの問題点の抽出
- ・ かなり時間におされていたイメージがある
- ・ カリキュラムにそったより具体的な議題で進めて欲しい。
- ・ カリキュラムの具体的な内容にふれるまでにはいたらなかった
- ・ カリキュラムの作成などに殆ど時間をかけてしまっている。
- ・ カリキュラムの作成の時間が長い。評価方法にもっと時間を割いたほうがよいのでは。
- ・ カリキュラムプランニングで病院薬剤師が薬局実習のものをやったがそのもの自体を理解していなかったのも前もって教えてほしかった。
- ・ カリキュラムプランニングにおいて自分の職能以外のテーマになってしまうと深く考察できない点。
- ・ カリキュラムを作り上げていく手法についてが大部分で、指導内容については漠然と理解した印象
- ・ カリキュラムを事前にある程度おしえてほしかった。
- ・ カリキュラム作成に、ほとんどの時間が費やされている。
- ・ グループのテーマ設定。多職種の人が集まっているグループなのでテーマによって得意、不得意が出る。
- ・ グループの人数がもう少し少ない方が意見がまとまりやすいのではと思いました。
- ・ グループの中で上下関係が発生している班があるなど、自由な意見が言いにくい部分が見受けられた点
- ・ グループは、ワークショップ中、同じでしたが、討議内容によっては違っていてもいいかと思った。ユニットの内容によって積極的話し合いに加われる場合と、いまひとつな場合があるように思う。
- ・ グループミーティングの時間が足りない。
- ・ グループワークの時に薬局勤務の方がチーム医療についてのプランニングをするのは大変そうでした。(ほとんど病院担当がメインで作成になってしまいました。)
- ・ グループワークの時間にももう少しゆとりが欲しかったと思います。
- ・ コアカリのLSやSBOsは、病院の臨床現場に即した。
- ・ このようなアンケートは早めに行って欲しかった
- ・ この内容で2日間は時間的に厳しい。
- ・ コンセンサスゲームは17年前にやった事があるのですが、それより新しいものはないのでしょうか？
- ・ こんな短期間詰め込み教育では熟知することは難しい。時間をかけて教育をすべきだと考える。
- ・ じっくりと深く学びたかった。
- ・ スケジュールがかなりハードだった。
- ・ スケジュールがタイトすぎる。評価者の均一化について論じられていない。
- ・ スケジュールがタイトで(特にレポートに関して)あり、もう少し、余裕があると学習効果が上がると思った。
- ・ スケジュールがタイトであり、常に時間に追われていた
- ・ スケジュールがタイトで遅くまで組まれているにも関わらず、翌朝にレポート提出を求められた点
- ・ スケジュールがタイトなのでもう少し時間的なゆとりが欲しい。
- ・ スケジュールがタイト過ぎたため、十分な討議ができない場面もあった。もう少しだけ余裕が欲しかった。
- ・ スケジュールがタイト過ぎる
- ・ スケジュールがとてもハードであった。
- ・ スケジュールがハードすぎる
- ・ スケジュールがハードすぎる。
- ・ スケジュールがハードだったが、時間内に終わらせるという意識を持つためにはやむをえないと考える。

- ・スケジュールが過密すぎる
- ・スケジュールが過密すぎる
- ・スケジュールが過密すぎる
- ・スケジュールが過密でなんとなくし身についた気がしない。
- ・スケジュールが過密で理解が追いつかない。
- ・スケジュールが少々過密すぎる
- ・スケジュールが非常にタイトで大変だった。もう少し余裕を持って取り組むことができればいいと思った。
- ・スケジュールが非常にハードであった。
- ・スケジュールを詰め込みすぎている
- ・スケジュールが過密過ぎる
- ・すべて
- ・スムーズな進行、分かりにくいことが多い
- ・スモールグループディスカッションの繰り返しではなく、各時間で異なる研修をした方がよい。
- ・タイトなスケジュールなので、じっくり学習する時間がないのでもう一つの課題にける時間が必要。
- ・タスクの最低限のレベルの確保
- ・タスクの助言をもっとほしかった(特に1日目、初対面の人がほとんどでまとまらない)
- ・タスクフォースのアドバイスが的確でないことがあった。
- ・タスクフォースの先生方の標準化。中には実習生を受け入れていない病院の先生もおられました。
- ・ディスカッションの時間が足りなかった。もっと長く設定してほしい。
- ・どうしても参加人数に制限がかかってしまい後進の人達が自由に参加出来る状況でない点
- ・とにかくハードなスケジュールだったので、集中力を維持するのに大変だった。
- ・ハードスケジュール
- ・ハードスケジュールな日程を改善してほしい。
- ・フォローアップ講習の実施
- ・フォローアップ講習の実施
- ・まずは、もう少し参加しやすい工夫が必要ではないか?例えば私自身は東京都内ではワークショップを確保出来ず、茨城県のワークショップに参加したが、そうでもない限り実務実習開始前に認定を取得することは不可能であった。
- ・まず全体の流れや習得すべき目標を明確にしてほしかったです。何が何だかよくわからず2日間を終了した感じでした。全体に秘密主義的な空気があり、違和感を感じました。
- ・もう少し時間に余裕があればと思う。
- ・もう少し時間の余裕が必要だと思った。
- ・もう少し時間をかけてWSをした方がよいと思った
- ・もう少し時間をかけてほしかった(内容が濃く、範囲が広い)
- ・もう少し時間をかけて討論したかった。
- ・もう少し時間的にゆとりが欲しかった
- ・もう少し多くの人数が参加できると良い
- ・もう少し余裕のあるスケジュールを希望
- ・もっと現場や実践に即した内容にするべき。実習にあたり教育を学ぶ事は大事だが、教育学部の学生になった気分だった。
- ・もっと時間をかけてすべきだと思う。
- ・もっと時間をかければよりよいものになり、記憶にのこるのではないだろうか?
- ・もっと自由に多くの薬剤師が参加できるように
- ・モデルコアカリキュラムの理解や工夫を助ける具体的なもの
- ・やった内容が抽象的な印象を持っています。もう少し実際に実習で活用する内容を中心に構成してもらえると理解が深まると思います。
- ・ユニットについて理解するのに時間がかかり、その後の検討事項に時間がさけなかった。時間配分を検討してほしい。
- ・より、学生指導に関連する具体的内容を取り入れる。
- ・ワークショップでのカリキュラムの作成や、評価の方略などが、実務を行いながらの実習受け入れにおいては、現実離れしている。(コアカリをすべてこなすには、学生のレベルが追い付いていないと思うし、受け入れ施設側もそこまで細かく指導・評価する余裕はないと思う。)
- ・ワークショップで経験したことも実際忙しい病院業務の中で指導していく場合理想的にはできない。
- ・ワークショップなのに作成されたプロダクトがどこにも反映されない。
- ・ワークショップにおいて学習目標をたてていく過程を経験したが、目標等はコアカリに全て網羅されているので、実際に自分たちで組み上げていくことがない。ただし、この過程を理解するには非常によい経験であった。
- ・ワークショップに参加できる人数がかぎられていること。希望者が十分に参加できない。
- ・ワークショップに消極的なまま2日間を終えてしまう人がいた
- ・ワークショップのグループ構成メンバーにより、充実度が変わってしまう。また、タスクのメンバーにもだいぶ影響を受ける。カリキュラムプランニングのテーマが古い。
- ・ワークショップの回数を増やす
- ・ワークショップの開催が、実務実習の質の向上にあまり寄与しない点。
- ・ワークショップの開催が、実務実習の質の向上にあまり寄与しない点。
- ・ワークショップの開催が、実務実習の質の向上にあまり寄与しない点。
- ・ワークショップの開催回数が少ない
- ・ワークショップの開催回数が少ないと思います。そのため、指導に当たる薬剤師養成がなかなか進まない。
- ・ワークショップの開催数が少なすぎて、指導薬剤師を増やすことが出来ないので、回数を告知して増やしていくべき
- ・ワークショップの実施内容は伏せられていたようだが、ある程度内容を公開し事前準備(知識)は必要だと思う。
- ・ワークショップの内容が学生実習に役立っているかどうかは疑問である。(学生と病院薬剤師でかなりの温度差がある。
- ・ワークショップは立場が同じグループにした方がよいのでは? アドバンス編は立場を超えて行うとしたほうが、実務的では。
- ・ワークショップを開催するのが大変である。もう少し簡素化できないのでしょうか?
- ・ワークショップ参加希望の方が結構いるが、希望してもなかなか参加できない点。
- ・意見の誘導を感じる。
- ・意見交換の時間をもう少し長くしてほしい。
- ・異業種の方たちとグループを作ることも有意義ですが、施設内容・規模に近い方との情報交換も実践的で有意義だと思います。
- ・飲み会は必要ない。

- ・遠くでやらないでほしい。
- ・課題に対するSBOs作成では具体的な例や回答例があるとわかりやすい。また、正しい方向性へ導くようなフォローがしっかり行われるとよいと思われます。
- ・過密スケジュール
- ・開催の頻度を増やしてほしい。コーチングもしたかった。
- ・開催場所。休日ダイヤで本数の少ない JR では、行きも帰りも不便でした。
- ・概念などの基礎教育と、実際のカリキュラム作成実習体験などを織り交ぜてほしい。ワークショップが開催される地域に限られており、地元薬剤師優先となってしまう、地域によっては新しい人材育成に苦慮している。県薬の力に頼るのみでなく東北地区全体の視点で、ワークショップ開催してほしい。
- ・各SGBの時間をもう少し長くして、じっくりと討論できるようにしてほしい。
- ・学生に自主的に学ばせる視点が欠けていると思うので、補強してほしい
- ・学生を教えるための方策・方略については、もう少し具体的に示してほしい。
- ・学部教員の意識高揚
- ・期間を延長してほしい。もう少し余裕がほしい。
- ・議論する時間を長くしてほしい
- ・議論の時間をもう少し長くしてほしい
- ・休日返上で行うのに、詰め込みすぎと感じた。1日にならないか。内容はともかくワークをするという観点で行うなら 1日でも何とかするのは？
- ・教育学の時間をもっと増やして欲しい。
- ・教育原理としては理解できたが応用するには時間的、人的な面で不可能であった。教育者でない人間が実習を行うという前提でプログラムを考えていただきたく思います
- ・教育用語と現場はちがうのでは。評価方法の向上を！
- ・教育理論・プロセスとしては理解できたが、実際の実務実習指導に生かせることが少ない。
- ・教育理論・プロセスとしては理解できたが、実際の実務実習指導に生かせることが少ない。
- ・業種の割合を調整してほしい。
- ・具体的SGDの提示をシミュレートしてはどうか？ 具体的テクニックの提示もしてはどうか？
- ・具体的な学生への活用を知れるとよかった。用語を理解することが難しい。
- ・結局、実習には役に立たない
- ・現行のWSでは、学生の指導の向上に結びつかないのでは？
- ・現在の WS の内容がわかりませんので特にありません
- ・現実に即した方法を検討する
- ・現場で実際に一層役に立つように配布資料を充実させてほしい。
- ・現場薬剤師と大学側との温度差を感じたので、大学側ももっと現場のことを理解してほしい(薬剤師の現状を知ってほしい)と思います。SBOができない場合の対応策が施設任せなので、改善してほしい。レクチャーのみでは学生に失礼だと思う。
- ・言葉が難しすぎて単語の意味を考えるだけで精いっぱいになってしまいました。
- ・拘束時間が長い
- ・拘束時間が長い。
- ・拘束時間が長い。1日目終了後の懇親会は不必要では？
- ・拘束時間が長いことが問題だと思う。2日間ではなく1日ではないと参加が難しい方がいるのでは？
- ・拘束時間が長いと思いました。
- ・拘束時間が長すぎる
- ・講義が長すぎる
- ・講義やグループ討議・作業の後から資料が配布されるため、具体的な解決方法が得られないまま課題が終了してしまう点
- ・講習会の開催が少なく実務が忙しい中で日程を調整するのが大変であった。
- ・今のままでよい。
- ・今のままでよい。
- ・今のままでよい。
- ・今まで知らん顔していて、急に6年生になったからといって現場の薬剤師はこんなものです。病院での薬剤師は少数職種で、薬剤師個人の能力やコネがなければ仕事を自信持ってできません。実務実習指導薬剤師なんて言葉を知らない薬局長たくさんいますよ
- ・座学との関連性が最初は理解できなかった。初めに関連性を示唆してもらえればよかった。
- ・座学よりワークショップが先になった場合、専門用語の意味がわかりにくい。
- ・最後の意見交換会(立食パーティー)は自由参加とした方がよい。
- ・最初聞いていた日程の2~3日前になっても連絡がないのでこちらから連絡したところその日はキャンセルになっており、次回への参加を打診された。キャンセルは仕方ないが、拘束時間も長くこちらも予定が立たないのでもっと早めにきちんと連絡するべきだと思う。これは私だけでなく、他の先生方でも同様のことがあったと聞いている。
- ・最低限のレベルの話ばかりでいいのだろうか
- ・作業する上で、パソコンがないことで議事もまとめにくく、プランニングのときも資料検索のツールもなかったのも、パソコンがグループに一台あると有難かった。
- ・作成した方策などが本当に生かされているのか？
- ・作法が重要視されて、実際どのように学生と向き合って指導していくかが見えてこない。
- ・参加されている薬剤師の殆どが薬局薬剤師のため、もっと病院薬剤師・大学教員の人数枠を増やしてほしい。
- ・参加すれば認定されるというのは納得いかない。本当に能力のある人間のみを認定してもらいたい。
- ・参加によってモチベーションが上がるようなものにすべき
- ・参加型実習というものがどういうものか参加してみて肌で感じる事ができてよかった。
- ・参加後の報告が負担
- ・参加実務型ということで、教える側だけが内容を知っていて、実際に参加している側は何も分からず入っていく非常に理不尽な開催方法のように思われた
- ・参加者に気を使い過ぎる。
- ・参加者に占める病院薬剤師の数が少ないため内容が薬局薬剤師に偏っていた
- ・参加者もタスクフォースも薬剤師会の方が多かった為か、話題がどうしても開局の視点になりがちの印象があった
- ・参加者間で実務実習に対する取り組む姿勢のレベルが違いすぎたため、より高い内容を求める者には満足度が低い気がした。
- ・参加人数が限られているため、実施回数を増やすと良いと思う。
- ・参加人数に制限があるため、施設により参加状況に差が生じていた点

- ・参加費の問題 人数制限があること
- ・仕事をしながらの週末まる2日間みっちりの講習だったので、非常に疲れた。もうすこし余裕がほしい。
- ・指導者の教育に興味を置きすぎていたように感じた。
- ・指導方法、評価方法などが抽象的でよくわからない。もっとコアカリキュラムに沿った教育とすべきではないか
- ・指導薬剤師の資格更新がない今、先の「認定実務実習指導薬剤師 10,000 人養成に向けての講演も含め、指導薬剤師をただ増やすのが目的であるような気がしてなりません。更新コースを設け、質の高い指導薬剤師を育成しないと、全く意味のないただのお飾りになります。何より実習生のためにならず、如いては患者さんのためになりません。
- ・施設レベルに応じた学生および職員薬剤師育成の統一カリキュラムの作成(施設間格差をなくすべき)
- ・私が参加したのは、極めて初期の頃であったので、大変新鮮かつ衝撃的であったが、現在はかなり定着しているので、実務上での問題点解決など、アドバンスの内容を含むワークショップを早急に策定するべきである。
- ・紙のポスターではなく、パソコンで記録、発表してはどうでしょうか
- ・資料が多すぎて整理できなかった
- ・資料は当日事前に配布するか、一切配布しない
- ・資料を最初から配布して欲しい。(一度聞いただけでは覚えきれないため、資料を読み返しながらの作業になってしまったが、資料にメモができないため後から見返してもよくわからないことがあった。)
- ・資料配布時期が講義後だったため、少し理解しにくいところがあった。講義前に配布してもらいたかった。
- ・事前にある程度の内容を公開しておくべき(受講者にも事前学習をさせるべき)
- ・事前にどういふことをするのか内容を知りたい。課題をもって臨みたかった。
- ・事前にもうすこし内容を公開すべき
- ・事前に学習内容を公表すべきだと思う。
- ・事前までスケジュールが解らない。開始時間が早い。
- ・時間(2日間では短い)
- ・時間がながかった。
- ・時間がもっとほしかった。情報交換会の時間も。
- ・時間が掛かるので集中力が切れてしまいそうになる点。休憩を小まめに取って欲しい。
- ・時間が足りないのでは。
- ・時間が足りなく感じました。2日間では足りないように感じました。
- ・時間が短かった
- ・時間が短く慌ただしかった。もっと余裕があれば良かった。
- ・時間が長い。分割できればありがたい
- ・時間が長すぎる。
- ・時間が長すぎる。ワークショップの参加費は大学が全額負担すべき。
- ・時間に追われて十分な解説、説明がなかったこと
- ・時間に余裕がなく、大変しんどかった。少し内容を減らしても、余裕ある時間割の方が吸収できるものも多いと思う
- ・時間の短縮
- ・時間をもっと長くする方がいいのでは、2日間×2回とか。
- ・時間割に余裕がなかったので、項目を減らすか、日程を延ばすかして欲しい。もっと、パソコンを活用した方がよい。
- ・時間数:2日間に渡るのは負担が大きい。もっと短時間にして欲しい。
- ・時間的な拘束が厳しいと感じることがあった。
- ・時間的にかなりタイトなスケジュールで疲労感が強かった
- ・時間的に大変タイトであった。日数を延ばしてでももう少し余裕が欲しかった。
- ・時間的に余裕がない
- ・時間的に余裕がなかったこと。
- ・時間的制約があり十分な討議が出来ない
- ・時間的余裕がなく、心身共に疲れ果ててしまった。逆にそれが達成感と感じられたかも?
- ・時間内に資料が作成できるように、タスクフォースの先生にはもう少し急かしていただきたかった。
- ・時間配分が厳しすぎる。
- ・時間配分をもう少し工夫すべき。
- ・自分の理解力がなく、なかなかついていけなかったため、なかなか難しいかもしれないが、3日間程度かけて、ゆっくりやって欲しいと思いました。
- ・質問等に対して発言する人が一定のりしか発言がないので、均等にみなが発言できるような対策が必要であると思う
- ・実際にこのような手間ひまをかけることは不可能なので、現実性のある内容にしてほしい
- ・実際の業務に沿った内容の方が理解しやすい
- ・実際の実務実習に役立つテーマに対するセッションも作って欲しい。
- ・実際の実務実習のカリキュラムプログラミングはワークショップではイメージできなかった。少し具体性があったもよい。
- ・実際学生に対してどのように指導するかのレクチャーをして欲しい
- ・実習が薬学教育の一環ならば、大学が学校内で実際行っている評価の内容を具体的に提示すべき。
- ・実習の受け入れをしたことがある施設かどうかや病院か薬局によってもグループ分けし、意見交換ができればよいと思う。
- ・実習を行う為の実務についての説明に徹底するべきではないか
- ・実習を進めていくにあたってもっと具体的なことが知りたかったです。
- ・実習を評価する項目が複雑なので、よりシンプルに変更してほしい。
- ・実務実習が始まる前のワークショップ受講だったのですが、もう少し他社の方の様子がわかる仕組みがあったらよかったです。
- ・実務実習のもう少し具体的な内容を提示して欲しかった。
- ・実務実習の各評価項目に対する評価基準を標準化すること
- ・実務実習を経験した今のほうが、より具体的で活用しやすい内容となるのでは。
- ・主催者側のレベルの均一化
- ・手法だけでなく、具体的な内容をもっと盛り込んで欲しい
- ・宗教セミナーのような空気を改善した方がよい
- ・集談力学、KJ法など普段聞きなれない言葉については、あらかじめ資料を配布した方がよいと思う。事前に、予習しておいた方がよいと思います。
- ・小グループの人数は受けたときの人数がよいとおもうが時間に追われるようで落ち着かない。
- ・情報交換が1日目だったこと(翌日もワークショップで、さらに提出課題もあり、厳しかったため)。
- ・成果集はあってもよいが、レポートは不要と思いました。
- ・積極的に参加できる人とそうでない人のバランスを取っ

た進め方

- ・先生方がもっと臨床現場の現状について知って欲しい。夢の話が多く、現状とずれていることがあった。
- ・専門的な略語等については、意味を含めた解説を始めに行うか事前配布して欲しかった
- ・専門用語が少し取り付きにくい感じがした。
- ・全ての講義に資料が必要
- ・全員を同じ位置にもってくるのは無理。ある程度、ランク付けしたほうが良いと思う。
- ・全国的に学習内容の均一化を目的に行われているが、施設での学習内容に差があるように感じます。
- ・全体の概要が説明不足で、抽象的な教育論に偏り過ぎ、SGD 毎にスクォースに必ず確認しなければいけない点
- ・他のグループの方との情報交換がなかなかできなかった。
- ・他施設の方との交流も持てとても良かった。
- ・他職種においては指導資格を取得するのに2カ月くらい講習を課しているのに比べると短すぎ内容も簡易すぎる。
- ・多くの教育関係者との交流によって、大学教育の方向性が理解できた
- ・多くの薬剤師がWSへ参加できるよう希望します
- ・大学との連携
- ・大学の先生方の現場への理解不足
- ・大学教育者と現場で実習に対する考え方が違うのではとすることがあります。
- ・大学教員がファシリテーターへの強烈的な批判を始め、円滑に聴講講習が受けられなかった。
- ・単刀直入でわかりやすくしてほしい。回りくどい形式だと思われた。
- ・短期間に多くのことを取得しようとする方法に少し無理があるかもしれませんが(日程・スケジュールがタイトすぎる気もします)。
- ・地域内での協力体制についての話し合いの場が欲しかった。
- ・抽象的すぎて具体的ではなかった。短期間で教育者を育てるのは不可能では？
- ・抽象的な話が多い
- ・昼休みくらいは外出できるようにしてほしい。
- ・調剤薬局と病院では指導の内容が異なるため、できるならば病院と調剤薬局のグループ分けは別にしてほしい。
- ・調剤薬局と病院の薬剤師を同一内容で行う事に無理がある。
- ・長時間に渡り拘束されるため内容を凝縮し時間を短縮してほしい。精神的・体力的にきつと感じました。
- ・途中で疲れてしまい、最後まで集中力が続かなかった。SGDの時間を長くする必要はないが、構成上、弛緩する時間帯が欲しい。
- ・到達目標の作成ばかりであった。もっと具体的に「この到達目標はこうした方略で実施する」という例が欲しかった
- ・同じ事柄をいろんな言い方で表現しているのが、混乱することがある。例)一般目標=GIO etc..
- ・導入のSGDがあまりに実習からかけ離れているので、やる気がくじけてしまいます。
- ・内容が濃いせいか時間が長すぎる。また、分からないことがあると次に進めない内容のはずが、チームで行うため勝手に進みどんどん理解できないことがだるま式に大きくなり、最後の方はディスカッションに参加できなくなってしまう感じになってしまう人がいて困ってしまう。
- ・内容が濃厚すぎて、2日間では消化しきれない。2日間だ

けでなく、継続的な参加が可能な体制を構築すべき。

- ・内容が漠然としていて、実際の実習に全く役立たなかった点。
- ・内容の構成:KJ、問題解決が2日に渡ること
- ・難しいと思いますが、時間が短すぎて初めて聞かれた場合は理解が難しいと思います。
- ・二日続きで一気に終了してしまう利点もあっただろうが、1日ずつ1週間の間隔を明けてもらえると、体力的にラクだったかも。
- ・二日目の講演が、余計であった
- ・日常業務とコアカリキュラムが乖離していると感じているので、業務に近い形でSBOs,GIOをたてたい
- ・日程
- ・日程がタイト
- ・日程がハード
- ・日程が限られているのはわかりますが分刻みのスケジュールで詰め込みすぎではと思いました。
- ・年月の経過と共に薄れていく意識を維持するための、繰り返し教育をたててほしい。
- ・濃厚な内容で2日間でのスケジュールは大変でした。
- ・配布資料が様々で、事後振り返りを行いたくても、参考となる資料が乏しいように思います。冊子の作成など資料の充実を望みます。
- ・配布資料は説明する前に渡して欲しい。必死にメモをとった後に資料を渡されても困る。(会場で発言したが却下された)
- ・配布資料を事前に配布してほしい。
- ・必要に応じて、病院と薬局を分けるべき、(バランス良く)
- ・評価方法など具体的にどうすればいいか、もう少し細かくやって欲しかった。
- ・病院、開局薬剤師、大学教員とは業務内容(指導内容)が微妙に異なるのでディスカッションが噛み合わないことがあった。
- ・病院、薬局、大学職員など様々な立場からワークショップに参加したため、お互いの職場の理解を得ることに時間がとられたように感じられた。事前にテーマを与えるなどの対応も必要かと思われる。
- ・病院からの参加人数が限られており、希望者全員が参加できないこと。
- ・病院と調剤薬局で実習内容が違うと思うので、それぞれが分かれてグループを作った方がいいのかもしれないと感じました。
- ・病院と薬局薬剤師を分け、それぞれで情報交換の時間が欲しい。
- ・病院勤務で活用できる内容に参加できればもっとよかったですかも
- ・病院勤務で活用できる内容に参加できればもっとよかったですかも
- ・病院現場では、チーム医療が叫ばれている現状で、全薬剤師の将来像に向けた、今現在すべきことを考えなければ
- ・病院薬剤師・保険薬局勤務薬剤師・教員の割合がワークショップ間でばらつきがある点。
- ・病院薬剤師が少なかった
- ・病院薬剤師と調剤薬局とで状況が違うので、課題によっては、グループを分けたほうが良いのでは。
- ・病院薬剤師と調剤薬局薬剤師の割合は同等にすべき。調剤薬局薬剤師が病院系領域を討論しても、病院のシステムや他職種のことを知らないで、調剤薬局での視点でし

- か論じられてない上、意見がでない。
- ・病院薬剤師の参加枠が少ない
 - ・病院薬剤師の人数割り宛が2割しかないのは今後の実務実習の円滑な運営を阻むことも充分考えられる
 - ・病院薬剤師の枠が少なすぎる。
 - ・部屋移動が多かった。
 - ・方略の作成練習などは、具体的に例を挙げて行うのなら病院と薬局で分けた方が良いと思った。
 - ・方略等初めて目にする単語の意味を理解できないうちに講義を受けるので、講義内容が理解出来ないまま進む
 - ・方略等々、日常生活では使わない言葉は学生指導に用いることは難しい
 - ・目標を立てる時のテーマが古い。
 - ・薬学教育の現場や現状をもっと知りたいと感じた
 - ・薬局のみ、病院のみの職種別討論の場を設けるとよい
 - ・薬剤師同士でディスカッションをすると意見は活発に出るが、薬剤師論議のようになるので教育論を学んでいる事をもっと意識付けした方がよいと思う
 - ・用語が難しい
 - ・要素が多すぎてついていくのに必死だった。他の参加者と打ち解けることが出来た頃に終わってしまった。
 - ・理想論であって、非現実的である。
 - ・理念的なものだけでなく、実践編も必要だと感じた。
 - ・隣県での研修であったため、今後は各県で研修を行えると良い。
 - ・話し合う内容がもう少し理解しやすいものだったらよかったのに、と思います。

【記述 48】

4. ワークショップ全体について

(3) ワークショップに参加して、改善すべき点、期待はずれだったこと、こんなことをやって欲しかった、こんな情報が欲しかったなど、自由にご意見をお書き下さい。

② 期待はずれだったこと

- ・「学生がこんなことをやっています」というのは理解できたが、それが実習へ結びつくことはなかった。
- ・2日かかった割に、印象に残る内容ではなかった。
- ・2日間では十分なプランニングが習得できなかった。
- ・2日間のWSで実務実習指導が出来るか等、多くの不安は払拭されなかった。
- ・2日間をかける内容ではなかった
- ・KJ法について学んだが、あまり実習に役立っていない
- ・KJ法は理解するのが難しく、1回のワークショップでは使いこなせるようにはならなかった。
- ・SBOs すべての説明があると思っていた。
- ・SGD で発言が少なく、温度差がかなりあった。病院と薬局勤務の差も感じた。
- ・SGDは有効と思うが、受け入れる実習生が少なくSGDができない場合の対応が分からない。
- ・WSで何をやるのか全く予備知識なしに参加した。WSの目標くらいは事前に知らせるべきと感じた。まるでミステリーツアーのよう。
- ・WSの内容と医療が結びつかなかった
- ・WS以降のフォローがない。
- ・あとで考えてみると机上論が多く、実践的でない
- ・あまりにも抽象的過ぎて、実際の業務には何も薬にたたなかった。

- ・カリキュラムに沿わないといけないと思うのだが、簡単な事を難しくして議論している感じがした。
- ・カリキュラムに対する具体的な対応
- ・カリキュラムの構成や、全体の進め方など具体的なところを教えてもらう場だと思っていた。参加すれば何が必要で、何を留意しなければならないかなどを把握できると思っていました。
- ・カリキュラムプランニングにおいて、もう少し多くのことを実際に行ってみて良かった。
- ・カリキュラムプランニングや評価もよいが実際の場面できかに指導していくかが最も大切だと思いますがその細やかな紹介はまったく無かったので残念でした。
- ・カリキュラムを作ることが、指導薬剤師の育成につながるか疑問を感じる。
- ・カリキュラム作成が具体的にでなく中小病院と大病院のギャップを感じた(中小病院では理想どろりにはいかない)
- ・グループが2日間変更しない点、SGD中に寝ているタスクフォースがいて幻滅した点、
- ・グループディスカッションをタスクフォースに誘導されて、グループの意見と違う方向に結論を持っていかれたこと
- ・グループミーティングの時間が足りない。
- ・コアカリキュラム内容の具体的な説明がなかった。
- ・コアカリの作り方などは理解できたが、コアカリ全体の把握はできなかった。
- ・コーチングについてなかったこと。
- ・すぐに現場に活かせる情報が少なかつた。
- ・すでに実習が始まっているのにカリキュラム作成のウエイトが高すぎて具体性に欠けるように感じました
- ・すべて
- ・その場で人間関係が終わってしまうこと。その後もMLなどを作って情報交換していきかけた
- ・その当時は、実際の業務に対する具体例の提示があると思って参加しました
- ・タスクのレベルが様々であった。若いタスクの方が完全にミスリードをしていた。
- ・タスクフォースが大変だった
- ・タスクフォースなどの導く側が未熟な印象があった。
- ・タスクフォースのファシリテーション(自分のグループ担当の方のみですが)
- ・どうしても現実(時間とマンパワー)の話題に行きついてしまう
- ・どのような指導を行えばよいのかが、分からなかった。
- ・なし。教育とはこういう具合に組み立てられているのかと感心した
- ・なれない状況になじむのに時間がかかった。
- ・なんで、自分の職場を奪う薬剤師を養成しなければならぬか理解出来ません。だけど自分がやってきた仕事の有益性を考えたりしながら、一応進級できる成績をつけてしまう私も私なのですが。
- ・ビデオ研修をすべて受けずにワークショップに参加したの理解するのに時間がかかる部分があった。
- ・もう少し、実際の実習での問題点に対する具体的な回答が得られると思って参加しました。
- ・もう少し具体的な討論ができればよかったです。
- ・もう少し具体的にやってもらえるのかと最初は思っていました
- ・もう少し具体的内容だと思っていた。
- ・もっと、モデルコアカリキュラムが具体的に理解できるかと思っていた

- ・もっと direct に実習に活かせるものかと思っていたが、理想的な形が多かったような気がする。
- ・もっと具体的に目標設定などの方法について学びたかった。
- ・モデルコアカリキュラムの具体的内容について理解を深められると思って参加したが、その点は全く期待はずれであった。
- ・モデルコアカリキュラムの曖昧な点について明確になると思っていたが、不明確なままであった。抽象的な内容が多く、評価も主観に頼ることが多い点。
- ・ワークショップでは特にありません。
- ・ワークショップで行ったことが実務実習のプランニングを行う際、ほとんど役に立たなかったこと。結局、実務実習用の書籍を何冊か読んでカリキュラムを作成した。
- ・ワークショップに参加してSBOs、LS等の作成を行ったが、結局「実務実習テキスト」にたよりきりになってしまった。
- ・ワークショップに参加しても、指導者としてのスキルが身に付かなかったこと。
- ・ワークショップに参加しても、指導者としてのスキルが身に付かなかったこと。
- ・ワークショップは役立ったが実際の臨床現場での参加型研修としては現実的でない
- ・意欲がないと感じられる参加者がいた
- ・何か、とっつきにくく、つかみづらい参加型のワークショップのように思えた。
- ・架空の話が多く、もっと実践的なものだと考えていたため期待はずれでした。
- ・課題に追われ、他施設の薬剤師と時間を共にできたのに、十分意見交換ができなかった。
- ・概念的なセクションが多かった。
- ・概論が多過ぎる。
- ・各施設約1名しか参加が困難だったため、スタッフに伝達したくても1人で全てのスタッフにわかってもらうのは困難でした。
- ・各論的なことが無かった
- ・学生の意識にギャップがある(学生側で)
- ・基礎のみで具体性に欠けたこと
- ・机上の理論が多かったこと
- ・技術論に時間がとられていたような気がする。
- ・教える技術を高める手法の内容がないこと。
- ・教育=自身の研究と勘違いしている参加者が居たこと
- ・教育の実践にはあまり役に立たない
- ・教育はスキルだけではできないので、一つの方法としてこのようなワークショップがあるのは理解できませんが
- ・教育学の概論に終始した項目があった。たとえ30秒でも具体的例話を話してもらえば興味もてる気がしました。
- ・教育者ではないので、評価方法などに関しての学びはありますが、具体性に掛けているように感じました。
- ・教育者をつくるには時間が短く、抽象的な概念だけを知っても実際の学生の指導には役に立たない。
- ・教育用語の説明会的な面。現場にそのままではあてはめるのはどうかと思います。
- ・教員も含めて、現実の実務実習経験者が少なかったこと。これはやむをえないことでしょうが深みが出なかった。
- ・業務で来ている人のやる気の無さ
- ・具体性が感じられませんでした。
- ・具体性に欠けた。
- ・具体性に欠けている。
- ・具体的な指導、評価方法を学びたかったのに抽象的な概念ばかりで役立つ情報が乏しかった
- ・具体的な指導内容について掘り下げて考える場が無かった。
- ・具体的な実習内容や方法論についての話ではなかったこと
- ・具体的な内容があまり示されなかった。
- ・具体的にどの様な実習を行えばよいか明確でなかった
- ・具体的に実際のカリキュラムがわかると思っていた
- ・結局、実習には役に立たない
- ・結局、大学人は臨床の教育はできない、という点
- ・結局タスクフォースの誘導する方向に持って行くのであれば、ワークショップは不要だと思う。
- ・現場では役に立たない内容が多い。
- ・限られた時間の中であるため、コアカリキュラムの詳細についての話が少なかったこと
- ・工藤先生が学ばれた以外の教育手法(たくさん提唱されているものがありますが)について触れられなかった点。
- ・考え方が多く、実際の現場とは離れる事柄が多かった
- ・高度な教育的な内容で、実際の業務内では難しいと感じました。
- ・埼玉は、病院薬剤師が参加に関しても不利な体勢であること。(参加枠数が少ない。)
- ・参加後の懇親会終了時間が遅いため負担
- ・指導内容・指導方法を具体的にレクチャーして頂けると思っていたため、そのような内容がほとんど無かったのは残念でした。
- ・指導薬剤師にふさわしくないレベルの人が参加していたこと
- ・資料の内容の充実。
- ・事前実習の課題をテーマとしておりSGDが難航した。
- ・時間に追われて各課題が消化不良だった。
- ・実際にどのように指導するか例が無かったため、受入が不安になった。
- ・実際に学生を評価する方法を具体的に教えてほしかった。
- ・実際に行われている施設のカリキュラム設定を具体例として挙げて、説明して欲しかった。
- ・実際に指導する内容と異なるカリキュラムを立案するわけではない
- ・実際に実務実習の指導をしてみて、あまり役に立たなかった。教育の単位をもらった感じ。
- ・実際のSBOsを具体的にどのように教えたらいいかわからなかった
- ・実際の学生実習に応用することが難しいので、十分WSの成果を反映出来なかった。
- ・実際の学生実習に役立っているのが難しい。
- ・実際の実習に直接関係のあるような内容かと思っていた。
- ・実際の実習指導にどう生かしてよいかわからない。基礎部分なのかもしれないが。
- ・実際の実務実習には役に立たないことばかりだった
- ・実習カリキュラムの作成方法や、実際の進めか方を教えて頂けると思っていた。
- ・実習受入れ前に参加したので、実際に実習をどのように行うかが判らなかった。実習を行う為に学習プログラムをどのように作成しているかは判った。
- ・実践的でなかった
- ・実務に沿ったものでなかったこと、概要や考え方が多く理解不能の場面があった。
- ・実務実習に関する標準化は指導者への意識付けだけで

あったこと

- ・実務実習に直接関わる内容が少なかった
- ・実務実習に直接結び付くと思ったが、実習の方法を体験した感じだった。
- ・実務実習の現状(学生の教育・質)とかけ離れていて、実習で活用できなかったこと
- ・実務実習をするうえでは役に立たないように思った
- ・実務実習担当以外の学部教員が協力的でなかったこと
- ・受けた会場が自宅から離れていたため、移動に時間がかかった。
- ・修了式の時、ワークショップの優秀者に記念品を贈っていましたが必要ないと思います
- ・新しい知見が多く新鮮でした。特に期待が外れたという感想はありません。
- ・積極的意見が少なかった。
- ・専門知識が身につくと思った。
- ・専門的な内容でなかった点
- ・全体的に教育学概論の印象が強く、それはそれで役に立った部分もあるが、もう少し実践的な内容を期待していたため残念であった(どういふものを期待したかは次設問に回答)。
- ・全体的に中途半端のような気がしました
- ・総論のみにとどまったこと
- ・他の病院、大学病院の実際の内容が紹介されなかったこと。
- ・他の病院薬剤師と全然話せなかった事。情報交換などまったく出来ず。
- ・他の薬剤師との交流がその場限りとなったこと
- ・大学での授業のようで、具体的に実際の実務実習に則した内容でなかったこと。
- ・大学での授業のようで、具体的に実際の実務実習に則した内容でなかったこと。
- ・大学の授業と一緒に、知識はについても実際に役立つことは少なかったと思います。
- ・大学の先生が「私は分からないので」と消極的な姿勢で、討議や作業にあまり参加されなかった
- ・大学教員との情報交換がもっと出来れば良かった
- ・大学教員の参加者の意欲が低かった点
- ・大学側からの参加者が少なく、たくさんの意見が聞けなかったこと
- ・大学教員との意見交換の場がない。
- ・調剤薬局の薬剤師で、施設より派遣されてきた方は非常に消極的でグループワークが盛り上がらなかった。
- ・同グループに不適切な態度の方がいたこと
- ・特に期待はなかったのではない。
- ・内容が抽象的すぎてもっと具体的な内容を期待していました。実務実習について何も知らないのです具体的に教えて頂きたかった。
- ・評価方法(評価は大学の教員が行なうべきことと考えるので、評価は必要と感じない。)は不必要。
- ・病院なら病院施設だけのSGDが無く、各施設の客観的問題点が見えず改善方法が見いだせなかった事
- ・病院勤務であるが、病院に関して発言する機会が少なかった。
- ・病院勤務なのでセルフメディケーションの題材は実習に活用できなかった。
- ・病院勤務なのでセルフメディケーションの題材は実習に活用できなかった。
- ・病院実習のスキルをアップさせるものではない
- ・病院薬剤師、薬局薬剤師、大学教員と合同に行うことで、実務の内容とは関係のないことをした。
- ・病院薬剤師、薬局薬剤師、大学教員間の温度差
- ・病院薬剤師として実務実習の内容を確認したかった。
- ・病院薬剤師の参加人数が少なく(調剤薬局の人が多く)、他の病院施設の情報をあまり得られなかった。
- ・方法論だけでは役に立たない
- ・方法論ばかりで、もっと実践的なものがよかった。また、方法論自体はわかりましたが、時間的余裕のない現場で実践できるとは思えませんでした。
- ・未来の薬剤師(学生)カリキュラムも必要だが、現在の薬剤師の育成カリキュラムの方がもっと重要。職員薬剤師の育成カリキュラムを軽視している施設の存在が施設間格差を生んでいる。
- ・目標はあらかじめ設定されているので、実際に作業する項目について時間をかけたほうがいいと思う。
- ・薬局開設者や新任大学講師がおもで、一般病院の薬剤師業務を全く知らない方が多く、実務実習に関する今後の相談などはできなかった。
- ・薬局薬剤師のレベルが低かった。
- ・与えられたテーマによっては、グループの進行などでペースの違いが出ていたこと
- ・与えられたテーマによっては、グループの進行などでペースの違いが出ていたこと
- ・理解は必要だがあまり活用できる内容ではなかった
- ・理想論ばかりであり、そのまま使えないことが多すぎると感じた
- ・六年制薬学教育の目指す方向性

【記述 49】

4. ワークショップ全体について

(3) ワークショップに参加して、改善すべき点、期待はずれだったこと、こんなことをやって欲しかった、こんな情報が欲しかったなど、自由にご意見をお書き下さい。

③ こんなことをやって欲しかった。

- ・(実際の実習で求められる)SBOs に対する学習方略のプランニング
- ・「教える能力」を養う学習をしてほしかった
- ・11週をどのように組み立てて実践していくか等の具体的な作業
- ・②の項目かもしれないが、カリキュラムプランニングで担当したユニットが畑違いで作成作業時、頭の切り替えが大変
- ・6年制の実務実習開始前だったので実感がなかったせいもありますがもっと具体的な事例を取り入れてほしかった
- ・KJ法は有名なので知っている人も多いのでは。それ以外の問題解決法にどんなものがあるのか、実際に沢山の解決法を体験できるとよかった。
- ・LSやSBOについて、詳しい確認が欲しかった。どの程度の内容を求めるか等。
- ・WSを受けた認定指導薬剤師の役割を示してほしい。
- ・コアカリキュラムに従って、実際どのような指導をすれば良いかの解説やアドバイス
- ・コアカリキュラムを理解していない方がいるのでOSCE・CBTも含めて解説が必要である
- ・コーチングの講義、実践。
- ・コスト意識を持たせるような経営にリンクするような医療の

あり方

- ・これから、もっと多くの施設に参加させるのであれば、規模にみあった教育の進め方なども示して欲しい。
- ・タスクフォースとなられた方の苦労話を聞く時間を、少し組み込んでいただきたい
- ・ティーチングやコーチング
- ・ディスカッションは病院薬剤師は病院薬剤師毎など同じような立場のグループの方がやりやすい。
- ・できれば、病院ごと、調剤薬局ごとでグループを作っていたら情報交換がもっとしやすかったと思います。
- ・どんなことをおこなうのか、予め知らせてもらうと良いと思う。
- ・どのようなものを見てみたいか。どのようなものを学生が求めているかなどのアンケート結果(新規実習対象学生と前年度実習後の学生の結果を知りたい。)
- ・どのように実務実習の学生を受け入れ指導をおこなっていくかや実際におこなうべき事柄
- ・どの教育に何時間くらいかけるのが妥当なのか。
- ・トラブル対策や実習成果が得られない時の対策
- ・ファシリテーターの役割
- ・まだ実習生を受け入れていない施設の薬剤師の受講が多かったため、受け入れ経験のある薬剤師から実体験を交えた話が聞けたら安心できますし、実習の役に立つと思います。
- ・もう少し、グループ内で自己紹介を出来る時間があつたら良かったのに、と思います。
- ・もう少しフリーな時間を作り参加者・講師などの情報交換会
- ・もう少し具体的に現在行っている病院や薬局での実習内容を紹介して欲しかった
- ・もう少し個人ごとにアドバイス等あれば指摘して欲しかった
- ・もっとゆとりと情報交換をしたかった。
- ・もっと繰り返しやって身につけたかった
- ・もっと実際に学生を指導する上でのキャリアアップが図れる内容にして欲しい
- ・モデルコアカリキュラムにそった指導の実例等
- ・モデルコアカリキュラムに沿った現実的な指導要領の実習
- ・モデルコアカリキュラムの理解を深めるような内容。
- ・やる気がない学生への対応
- ・やる気のない学生への対応術
- ・より具体的なカリキュラム立案(時間が必要)
- ・リップサービスのない実務実習を終えて間もない学生の生の声を聞きたい
- ・レベルの向上を目的に、資料や手引きなど示してほしい
- ・ワークショップにもっと大学教員の先生方が参加されると、教育と現場の抱えている問題点がお互いに認識できたのではないかと思います。
- ・医療・医薬品安全管理やチーム医療・連携について
- ・概念と理論を学ぶ実習であったので、実際に実務実習ではどうすべきかが具体的に分ればよかったです。
- ・各 SBOsの解説(参考となる書籍はあるが、平成21年当時は考え方のすり合わせが必要だったと思う)
- ・各項目の評価基準についての情報がほしい
- ・各施設での、実習生受け入れについての具体的なところ(実施の仕方)の情報が欲しかった。
- ・各施設における実習の問題点と改善策
- ・各薬科大学の教育方針や履修内容の紹介
- ・各論(実務に応用できること)
- ・学習方略を実際にどんな形で各医療機関がやっているか

を具体的に知りたかった。

- ・学生と指導者の評価に差があるケースが多いので、実際の学生にも参加してもらい、どのような評価をすればいいの話を話し合いたい。
- ・学生に課題をってもらう時に具体的な課題例
- ・学生に対する実際の臨床経験をつませる方法論
- ・学生のタイプによっていかにそのやる気を導き出すかという教育手法を聞き取った。
- ・学生への指導方法
- ・学生評価の均一化訓練
- ・楽しかったです！
- ・教育学の講義や、海外の教育方法(薬剤師教育で成功している事例、失敗している事例)
- ・教育手法の変遷。
- ・業務別のワークショップ、薬業連携のワークショップをしてほしい。
- ・具体的な指導内容について
- ・具体的な指導内容の講義
- ・具体的な指導方法
- ・具体的な事例を多く取り入れ、どのように実習を進めていけばよいか参考にさせて欲しい
- ・具体的な実習の進め方。効果的な学生の指導方法。
- ・具体的な実習内容の解説
- ・具体的な授業や実習内容の例をあげて欲しかった。
- ・具体的な全体像をとらえたカリキュラム(例)、各 SBOsに対する指導の方法(例)
- ・具体的な評価のしかたをもっとやってほしい。
- ・具体的な評価の実例を知りたい
- ・具体的な評価方法
- ・具体的にコアカリキュラムを指導する LS の構築を行ってみたい
- ・具体的にコアカリで実状に沿った内容
- ・現在、病院での業務や実務実習で求められている入院患者を相手とした実習や教育の方法。
- ・現在はコアカリで LS を解説した本もあるので、これにそった形の講義
- ・現実的な指導カリキュラム作成の方法、学生指導の方法
- ・現実的な指導カリキュラム作成の方法、学生指導の方法
- ・現実的な指導カリキュラム作成の方法、学生指導の方法
- ・現状の問題点と改善方法についてより多くの時間をとりたい
- ・現職の薬剤師が、いまの国家試験に合格できるか調べてほしい。
- ・後から資料を配布するのではなく、先に資料を配布しながら説明などを聞き取った。
- ・項目別の指導の例など。どこまで求められているかの基準の詳細。
- ・今、学生は何を考えているか。学生の視点はどんなものか。
- ・今のままでよい。
- ・今のままでよい。
- ・今のままでよい。
- ・指導者としてスキルアップが出来るような内容。
- ・指導者としてスキルアップが出来るような内容。
- ・指導者としてのノウハウを身につけられるような内容
- ・指導内容・指導方法を具体的にレクチャーして頂けると、実習がスムーズに始められたかと思えます。
- ・指導方法の講義やロールプレイングなどがあっても良かった。

- ・指導方法や教育については大変よく理解できたが、具体的な指導内容についてもふれて欲しかった。
- ・施設により実務実習で行うことが難しい項目についての対策
- ・施設により実務実習で行うことが難しい項目についての対策
- ・事前実習内容の把握のための見学や講習
- ・実際に、どう実習をすすめていくかについての情報が欲しかった。
- ・実際に一般的な病院、薬局等のカリキュラムを立て、解説してもらえれば非常に良かった。ワークショップ後3カ月のカリキュラムを作成することは、薬剤部全体で非常に大きな労力となった。
- ・実際に学生を受け入れた施設の薬剤師が感じた、実務実習業務の現状・課題・今後の改善策などの話を聞きたかった。
- ・実際に行っている実務実習を見学したい。
- ・実際に指導する上での注意点などについて学習したかった。
- ・実際に指導を受け入れている施設からの実体験(施設状況や実習での工夫や問題点)
- ・実際に実習でのアプローチなど
- ・実際に受け入れる時に、活用できる評価方法などを具体的にやってほしい。
- ・実際のSBO 毎のカリキュラムプランニングを是非行っていただきたい。
- ・実際のモデルカリキュラムに沿った指導の様子の見学
- ・実際の学生に参加してもらい、実習の体験ができれば良かった。
- ・実際の学生の意見などを取り入れられるようなもの
- ・実際の教育の内容
- ・実際の指導内容について
- ・実際の指導例などをシミュレーションして欲しい。
- ・実際の実習で行うべき課題の検討会などを行ってほしい
- ・実際の実習内容の解説が聞きたかった
- ・実際の実務実習の運用方法
- ・実際の薬学生の試験内容をもっと知りたかった(どの程度の知識をもって実習に来るのかを知りたいため)。
- ・実習カリキュラムの作り方。評価の概論も大切だが、評価のやり方(抽象的な物ではなく、より実践的な内容で)。
- ・実習において何を言えばよいのかポイントの説明
- ・実習のすすめかたやSGDの進行のしかた、「こんなアイデアもある」とか…ほかに学生との接し方やハラスメントについてなど(講義でもよい)
- ・実習の具体的な内容について
- ・実習を受けた学生が指導者をどう評価しているか意見を聞いてみたい。
- ・実習後の学生の感想と大学への発表内容をどんな事をしたか知りたい
- ・実習生の心のケアや、各大学での事前実習の様子などの情報交換。大学教員と医療現場の薬剤師の情報交換が不足していると感じた。
- ・実習中の学生役と指導者役での実習中のシーンをを行い、それに対して問題点をディスカッションできればと思う
- ・実習日程作成
- ・実習方法の具体例の提示
- ・実習方法の具体例の提示
- ・実務に直接関係するSGDのテーマ設定
- ・実務家教員の臨床のスキル維持の方法
- ・実務実習コアカリキュラムについて簡単でよいので、ふれて欲しい(会場からも同様の質問が出ていたので)
- ・実務実習について実務的なことについて取り扱ってほしい
- ・実務実習に期待する学習内容について、具体的な情報が欲しかった。
- ・実務実習に消極的(やる気のない学生)への対応
- ・実務実習のSBOsについて具体的な説明がほしかった
- ・実務実習の具体的なカリキュラム作成や講義内容がほしかった。
- ・実務実習の模擬演習。
- ・実務実習への具体的な取り組み方
- ・実務実習モデル・コアカリキュラムにそって具体的な例をあげてほしい。
- ・実務実習を受けるにあたってもう少し具体的なやり方を教えて欲しかった。
- ・実務実習記録をインターネットを用いて行なうのであれば、大学側からノートパソコンを支給していただきたい。
- ・実例をあげた評価。
- ・実例を用いての具体的な指導方法
- ・主催者が事前にどれほど苦労してワークショップに臨んでいるのかをビデオなどで撮ったものを見たかった
- ・受講者は教育者でない人が多いので、実際の実習に沿った説明が欲しかった。
- ・情報交換会の場がもう少し欲しかった。
- ・製薬会社の意見が聞きたかった。
- ・全体的に理論的なことが多く体得するのは難しかった
- ・総論でなく各論をできるだけ具体的に
- ・他施設の情報。
- ・他職種(医師、看護師など)や患者の立場から薬剤師に期待することを話してもら
- ・他職種との違いについての知識を広める場の設定をもう少し多く、その目的のワケがあっても。
- ・他年代の方と情報交換できるのは非常によいが、同年代の同職種の方が同じグループにいたら良かった。
- ・多種多様のグループであるため、同規模の施設の薬剤師と情報交換ができず、業務へ反映する内容に乏しくなった。
- ・大学が期待する実習内容例の提示に対して、現場がどう考えるかなどの意見交換の場。
- ・大学で事前教育の内容を詳しく教えてほしい。
- ・大学の実習用ミニ薬局の見学。
- ・大学側と病院、薬局薬剤師間の実務実習に関する意見交換会。病院側が望むこと、大学側が求めることなど。
- ・単一のSBOではなく、実際の業務の中では多くのSBOsが関係しあっているということを理解させたい。
- ・中小病院でもできるような内容を教えていただきたいかったです。
- ・抽象的な事ではなく、模範的なカリキュラムや実習の進め方の具体的なシミュレーション的な事。
- ・調剤機器と薬剤師
- ・当時は十分だと感じた。
- ・日常業務がコアカリキュラムのどれに該当しているかどの業務を実施させればカリキュラムは満たされるのか
- ・認定薬剤師がワークショップを受講していない薬剤師に指導する方法、注意点などの方法
- ・評価すべき具体的な内容、ツールがあると思う。(ワークショップの範疇ではないと思う)